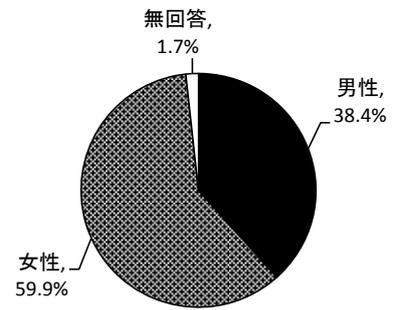


第2章 調査結果

1 回答者の属性

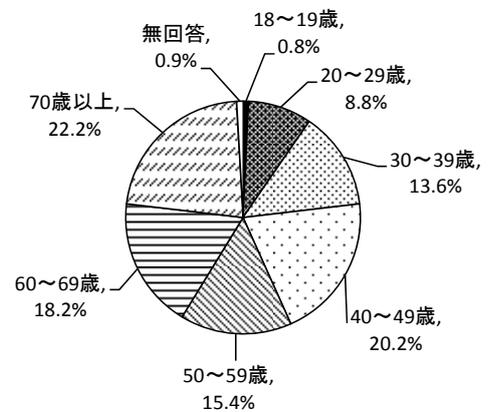
(1) 性別

○回答者の性別は、男性が 38.4%、女性が 59.9%であり、女性が男性を 21.5 ポイント上回っています。



(2) 年齢層

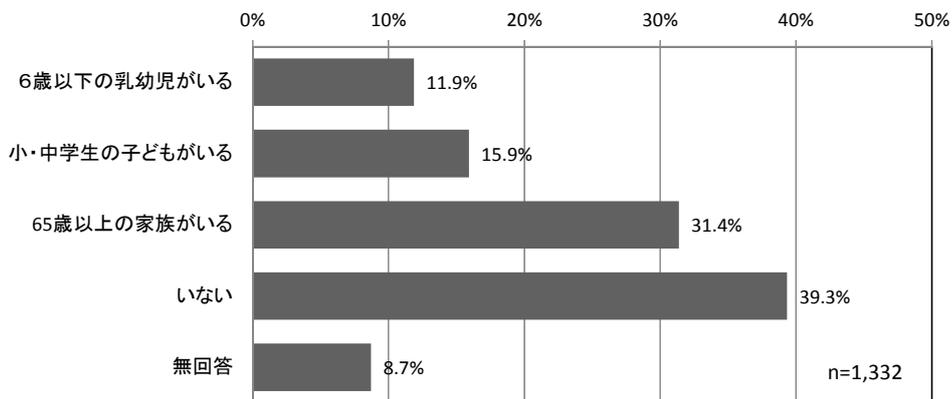
○回答者の年齢層は、平成 24 年 1 月 1 日現在の調布市の人口構成と比べて、40 歳未満は人口構成より少なく、40 歳以上は人口構成より多くなっています。



(3) 子ども又は高齢者の同居の有無

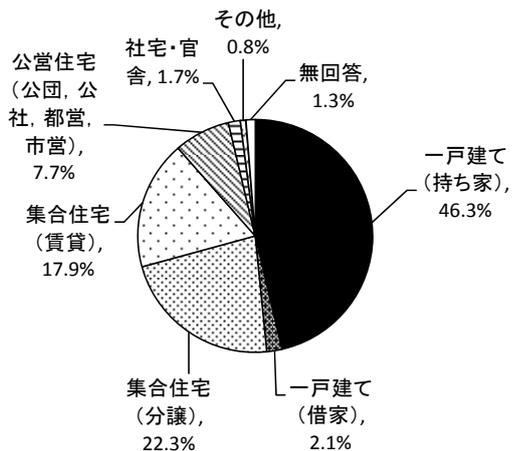
○回答者が同居する中学生以下の子ども又は 65 歳以上の高齢者は、「いない」が 39.3%で最も多く、次いで「65 歳以上の家族がいる」の 31.4%の順となっています。

○中学生以下の子どもがいる回答者は 27.8%（「6 歳以下の乳幼児がいる」+「小・中学生の子どもがいる」）で約 3 割を占めています。



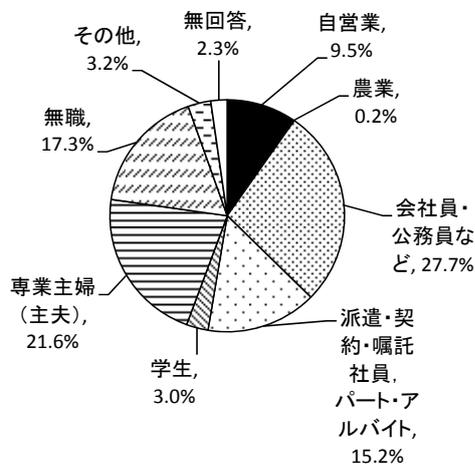
(4) 居住する住居形態

○回答者の住居形態は、「一戸建て（持ち家）」が46.3%で最も多く、次いで「集合住宅（分譲）」の22.3%の順となっています。



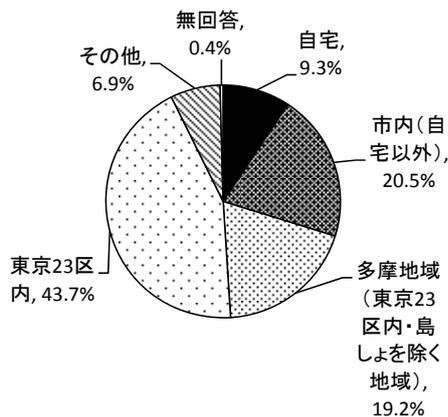
(5) 職業

○回答者の職業は、「会社員・公務員など」が27.7%で最も多く、次いで「専業主婦（主夫）」の21.6%の順となっています。



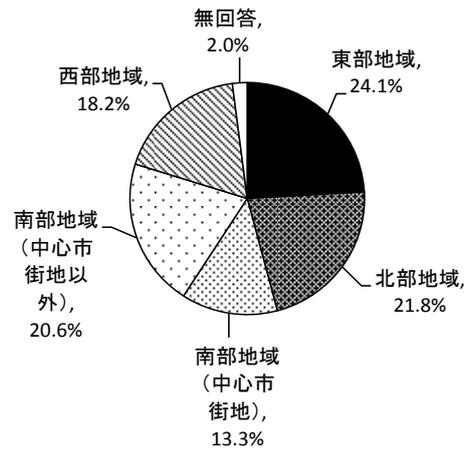
(6) 通勤・通学先

○回答者の通勤・通学先は「東京23区内」が43.7%で最も多く、次いで「市内（自宅以外）」の20.5%の順となっています。



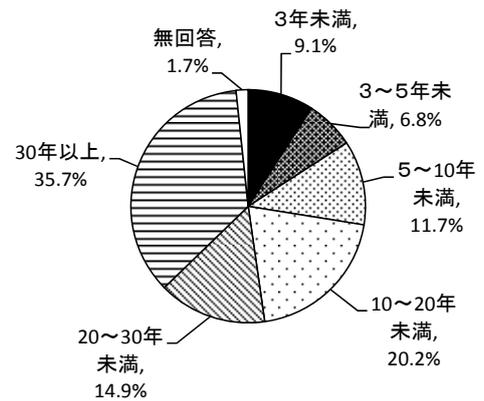
(7) 現在の居住地

○回答者の居住地は、平成 23 年 10 月 1 日現在の調布市の人口構成とほぼ同様となっており、「東部地域」が 24.1%で最も多く、次いで「北部地域」の 21.8%の順となっています。



(8) 居住年数

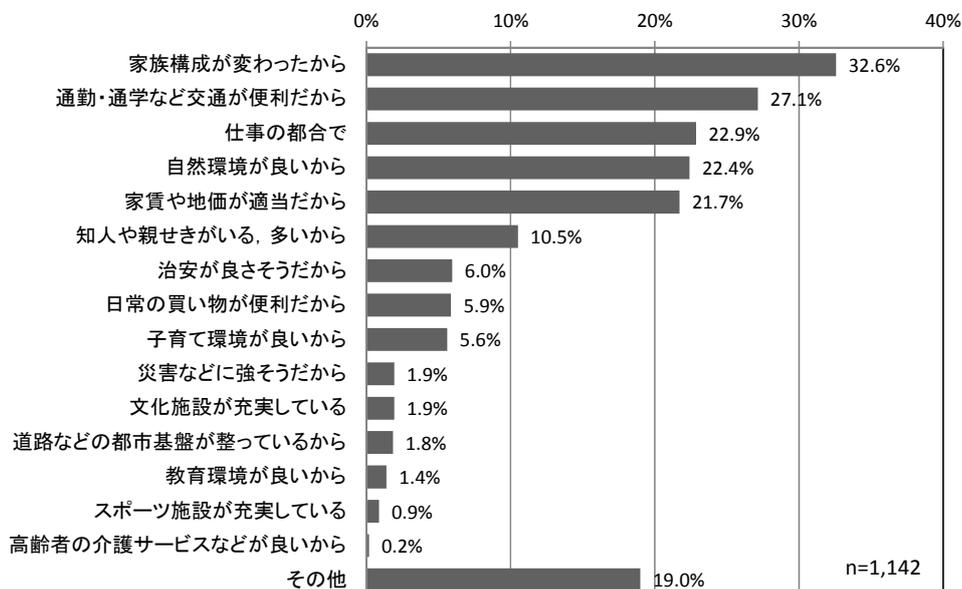
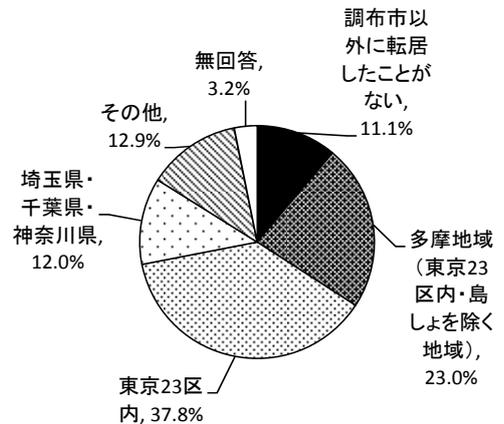
○回答者の居住年数は、「30年以上」が 35.7%で最も多く、次いで「10～20年未満」の 20.2%の順となっています。



(9) 以前の居住地と転入してきた理由

○回答者の以前の居住地は、「東京 23 区内」が 37.8%で最も多く、次いで「多摩地域」の 23.0%の順となっています。

○このうち、調布市に転入してきた理由は、「家族構成が変わったから」が 32.6%で最も多く、次いで「通勤・通学など交通が便利だから」の 27.1%の順となっています。

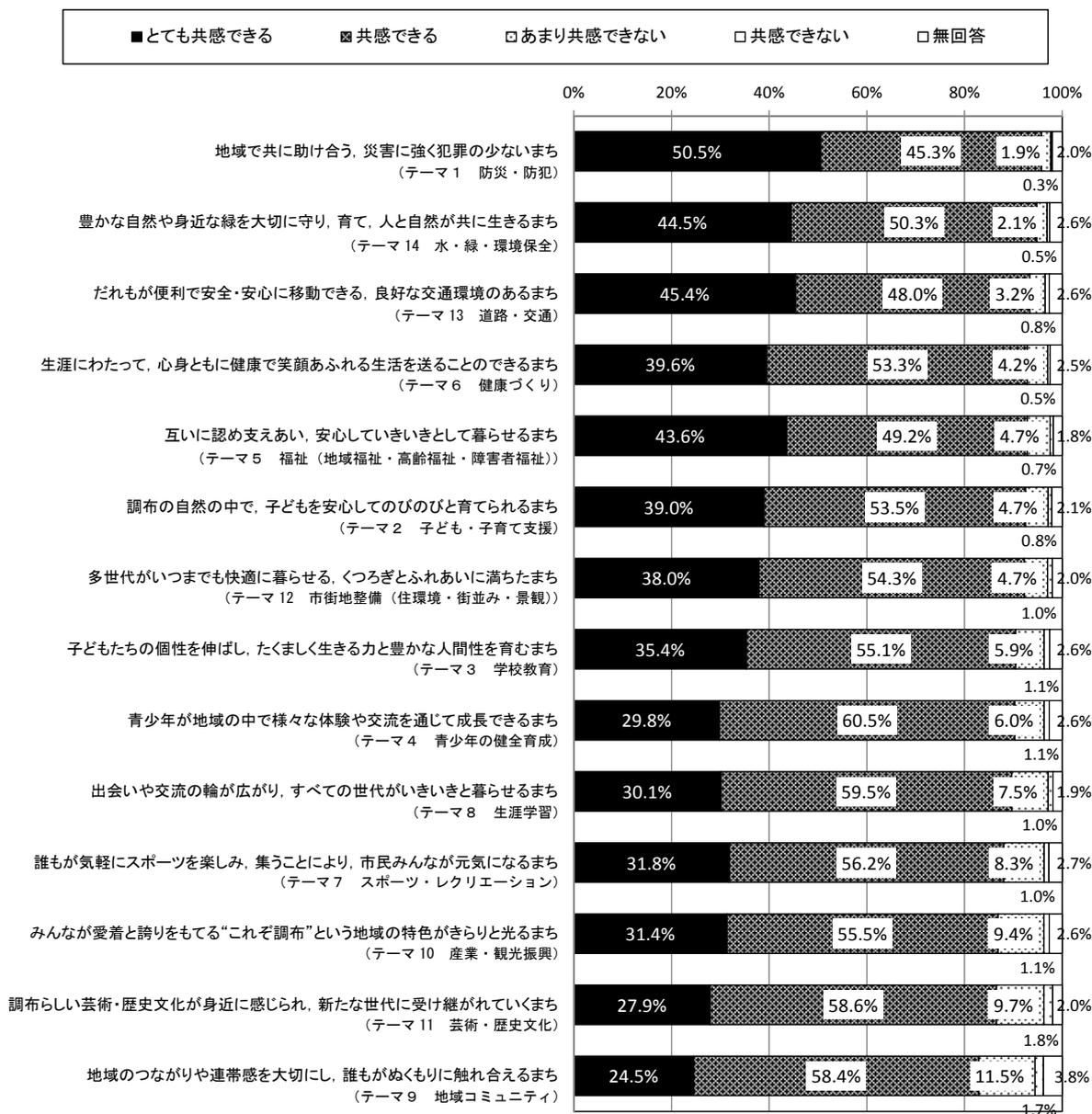


2 今後のまちづくりの方向性に対する共感性・優先度

(1) 14テーマの将来像に対する共感性

- 「とても共感できる」と「共感できる」の合計は、「地域で共に助け合う，災害に強く犯罪の少ないまち（防災・防犯）」が95.8%で最も多く，次いで「豊かな自然や身近な緑を大切に守り，育て，人と自然が共に生きるまち（水・緑・環境保全）」の94.8%，「だれもが便利で安全・安心に移動できる，良好な交通環境のあるまち（道路・交通）」の93.4%の順となっています。
- 全14テーマのうち，「青少年が地域の中で様々な体験や交流を通じて成長できるまち（青少年の健全育成）」以上の9テーマにおいて，共感性が9割を上回っており，最も共感性が低い「地域のつながりや連帯感を大切に，誰もがぬくもりに触れ合えるまち（地域コミュニティ）」でも83.0%で8割を上回っています。

図表 14テーマの将来像に対する共感性の割合
 （「とても共感できる」+「共感できる」が高い順）



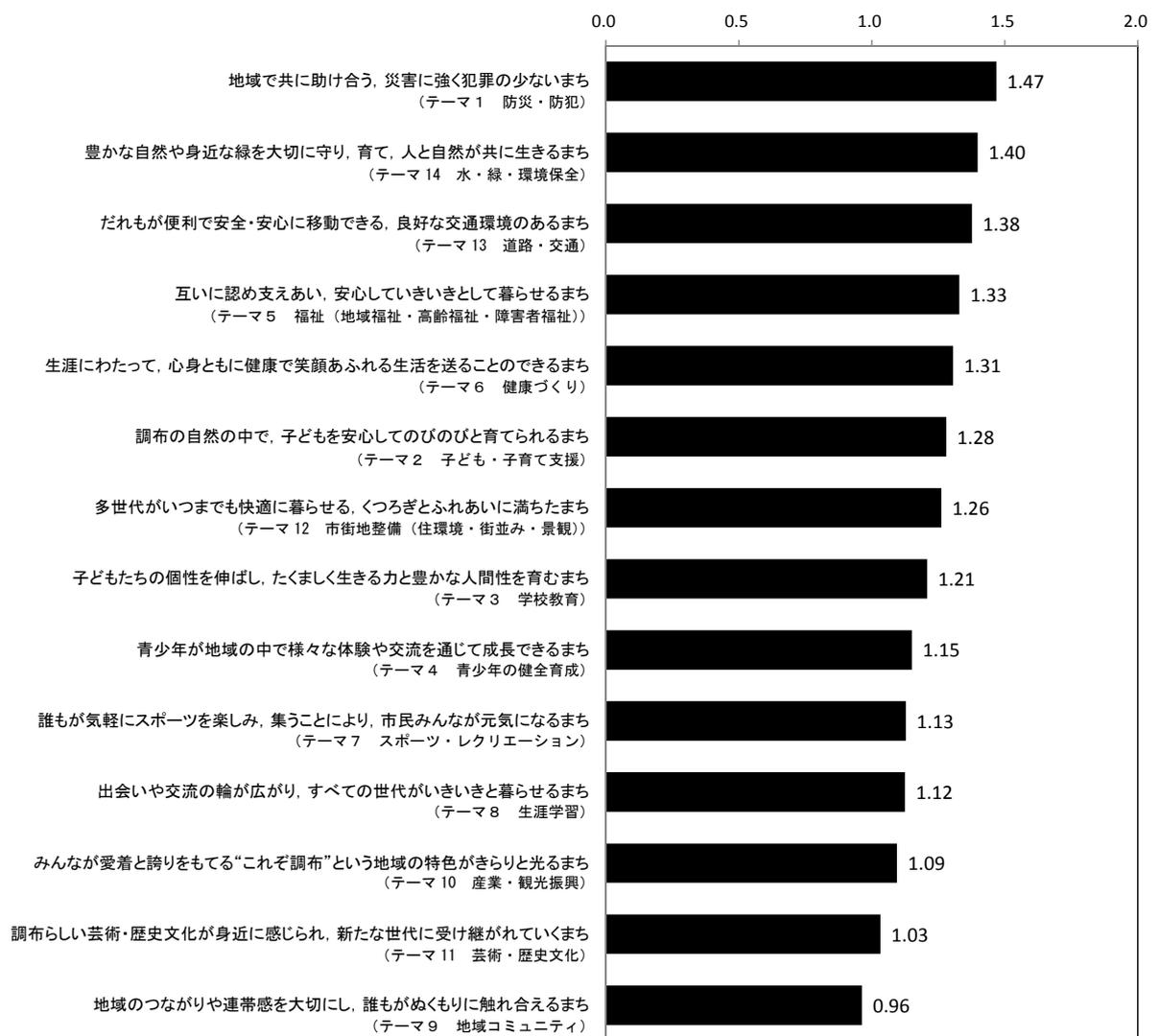
○14 テーマの将来像に対する共感性平均スコア※を見ると、「地域で共に助け合う、災害に強く犯罪の少ないまち（防災・防犯）」が1.47で最も高く、平成23年3月の東日本大震災を契機に、防災・防犯に対する市民の関心が高まっていることがうかがえます。

○続いて、「豊かな自然や身近な緑を大切に守り、育て、人と自然が共に生きるまち（水・緑・環境保全）」の1.40、「だれもが便利で安全・安心に移動できる、良好な交通環境のあるまち（道路・交通）」の1.38の順になっています。

※共感性平均スコア

$$\left(\text{「とても共感できる」} \times 2 + \text{「共感できる」} \times 1 + \text{「あまり共感できない」} \times \blacktriangle 1 + \text{「共感できない」} \times \blacktriangle 2 \right) / (\text{回答者数} - \text{無回答})$$

図表 14 テーマの将来像に対する共感性の平均スコア



(2) 各テーマに対する共感度・優先度

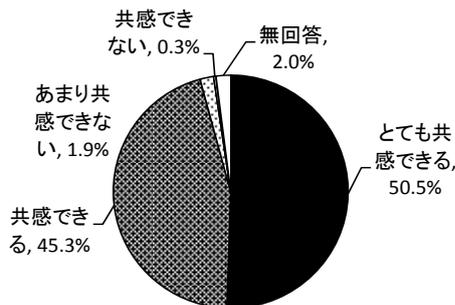
① 防災・防犯

将来像：地域で共に助け合う，災害に強く犯罪の少ないまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》
 市民の尊い生命と貴重な財産を守るため，自らの安全は自らが守る「自助」，地域で共に助け合う「共助」，公共が行う「公助」が連携して，だれもが安全で安心して暮らせるよう，災害に強く犯罪の少ないまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「防災・防犯」の将来像に対する共感度は95.8%で，全14テーマのうち最も高くなっています。
- 年齢層別にみると，「30～39歳」が97.2%で最も多く，次いで「40～49歳」の96.7%，「60～69歳」の96.3%が続いており，最も低い「18～19歳」でも90.0%で，9割を上回っています。

図表 全体の共感度



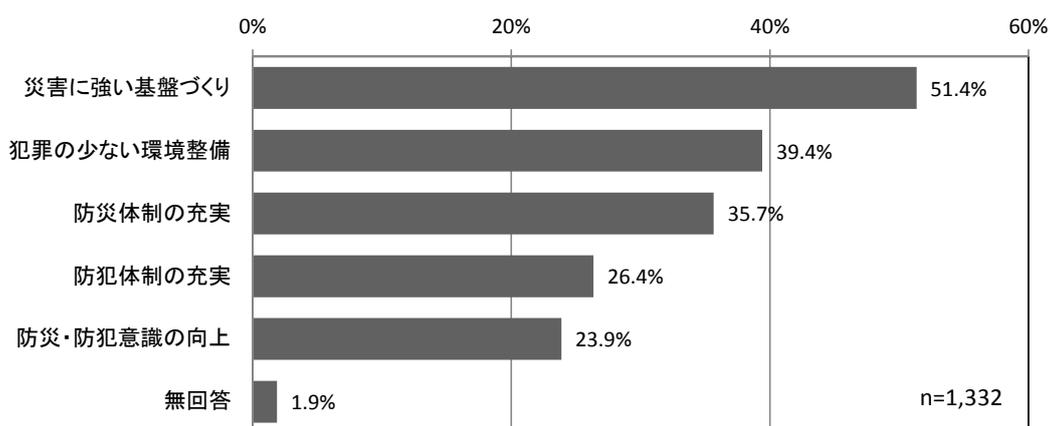
図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3. あまり共感できない	4. 共感できない	
		1. とても共感できる	2. 共感できる			
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	90.0%	70.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	95.7%	45.3%	50.4%	3.4%	0.0%
	3. 30～39歳 (n=181)	97.2%	54.1%	43.1%	1.1%	0.6%
	4. 40～49歳 (n=269)	96.7%	48.3%	48.3%	1.9%	0.7%
	5. 50～59歳 (n=205)	95.6%	47.8%	47.8%	1.5%	0.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	96.3%	50.4%	45.9%	2.1%	0.0%
	7. 70歳以上 (n=296)	94.9%	53.0%	41.9%	1.7%	0.0%

<優先すべき取組>

- 防災・防犯においてニーズが高い取組は、「災害に強い基盤づくり」が 51.4%で最も多く、半数を上回っています。
- 次いで、「犯罪の少ない環境整備」の 39.4%の順となっています。
- 性別にみると、男女ともに「災害に強い基盤づくり」が最も多く、女性(53.5%)が男性(47.9%)を 5.6 ポイント上回っています。
- 年齢層別にみると、18～19 歳は「防犯体制の充実」、20 歳以上は「災害に強い基盤づくり」が最も多くなっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 性別の優先すべき取組

		1. 災害に強い基盤づくり	2. 防災体制の充実	3. 犯罪の少ない環境整備	4. 防犯体制の充実	5. 防災・防犯意識の向上
性別	1. 男性 (n=511)	47.9%	33.9%	38.9%	28.8%	23.9%
	2. 女性 (n=798)	53.5%	37.0%	39.8%	25.3%	23.4%

図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 災害に強い基盤づくり	2. 防災体制の充実	3. 犯罪の少ない環境整備	4. 防犯体制の充実	5. 防災・防犯意識の向上
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	20.0%	30.0%	40.0%	50.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	49.6%	32.5%	42.7%	26.5%	24.8%
	3. 30～39歳 (n=181)	50.3%	39.2%	40.3%	25.4%	25.4%
	4. 40～49歳 (n=269)	52.4%	33.8%	37.5%	29.0%	21.6%
	5. 50～59歳 (n=205)	49.3%	46.3%	36.1%	22.4%	21.0%
	6. 60～69歳 (n=242)	55.4%	30.6%	38.0%	30.2%	24.0%
	7. 70歳以上 (n=296)	51.0%	33.4%	42.9%	24.3%	27.0%

<意見・提案等>

- 防災・防犯の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「地域の見守り強化」、「日常の心がけの重要性」、「情報発信の強化」などが挙げられています。

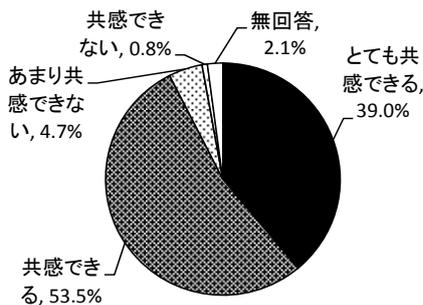
② 子ども・子育て支援

将来像：調布の自然の中で、子どもを安心してのびのびと育てられるまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》
 子どもの安全・安心を守るまちの基盤づくりや、地域での見守りネットワークづくりとともに、豊かな調布の自然とふれあえる身近な遊び場づくりにより、子どもが元気に、のびのびと育つまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「子ども・子育て支援」の将来像に対する共感度（「とても共感できる」+「共感できる」）は92.5%で、全14テーマのうち6番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「70歳以上」が94.9%で最も多く、次いで「30～39歳」の94.5%、「40～49歳」の92.9%、「20～29歳」の92.3%が続いており、子育て世代である20～30歳代の共感度は概ね高くなっています。
- 「6歳以下の乳幼児（98.1%）」や「小・中学生の子ども（95.8%）」がいる回答者の共感度は9割を大きく上回っています。

図表 全体の共感度



図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	90.0%	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	92.3%	34.2%	58.1%	6.0%	0.9%
	3. 30～39歳 (n=181)	94.5%	44.2%	50.3%	4.4%	0.6%
	4. 40～49歳 (n=269)	92.9%	39.8%	53.2%	4.1%	1.1%
	5. 50～59歳 (n=205)	90.7%	36.1%	54.6%	6.8%	1.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	90.1%	36.4%	53.7%	5.8%	0.4%
	7. 70歳以上 (n=296)	94.9%	40.5%	54.4%	2.4%	0.0%

注)表中の割合は「無回答」を含む値(以下、同様)

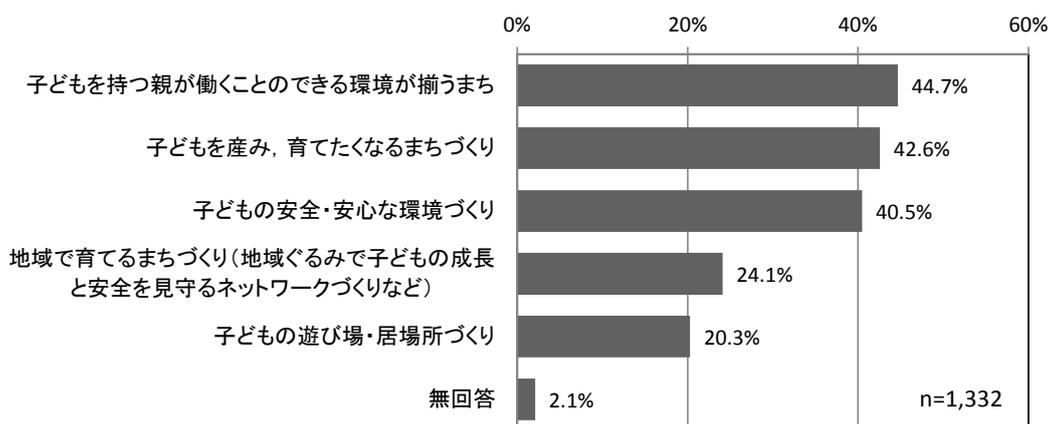
図表 同居家族別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3. あまり共感できない	4. 共感できない	
		1. とても共感できる	2. 共感できる			
同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	98.1%	51.9%	46.2%	1.9%	0.0%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	95.8%	46.2%	49.5%	2.4%	0.0%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	93.5%	37.6%	56.0%	3.6%	0.5%
	4. いない (n=524)	91.0%	36.3%	54.8%	6.3%	1.3%

<優先すべき取組>

- 子ども・子育て支援においてニーズが高い取組は、「子どもを持つ親が働くことのできる環境が揃うまち」が44.7%で最も多く、次いで「子どもを産み、育てたくなるまちづくり」の42.6%の順となっています。
- 特に、「6歳以下の乳幼児がいる」回答者は、「子どもを持つ親が働くことのできる環境が揃うまち」が53.2%で半数を上回っています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 同居家族別の優先すべき取組

		1. 子どもを産み、育てたくなるまちづくり	2. 子どもを持つ親が働くことのできる環境が揃うまち	3. 地域で育てるまちづくり(地域ぐるみで子どもの成長と安全を見守るネットワークづくりなど)	4. 子どもの安全・安心な環境づくり	5. 子どもの遊び場・居場所づくり
		同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	47.5%	53.2%	19.6%
2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	36.3%		35.8%	26.4%	47.6%	32.1%
3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	43.1%		45.7%	23.9%	43.8%	17.7%
4. いない (n=524)	44.3%		48.1%	23.7%	34.9%	17.0%

<意見・提案等>

- 子ども・子育て支援の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「待機児童問題の解消」、「公園や遊び場の確保」、「虐待やいじめの解消」などが挙げられています。

③ 学校教育

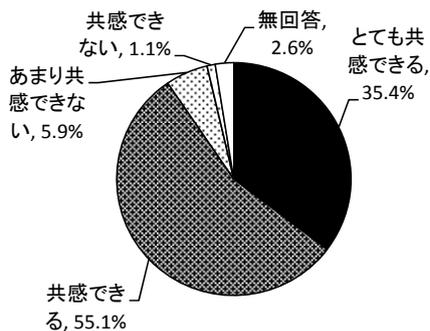
将来像：子どもたちの個性を伸ばし、たくましく生きる力と豊かな人間性を育むまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》

それぞれの個性を伸ばし、主体的に考える力を育むための機会や環境を整備するとともに、学力だけでなく体力や社会性、人間性も養えるような学校づくりと地域や自然、多世代との交流などさまざまな経験ができる環境づくりを進めます。

<将来像に対する共感度>

- 「学校教育」の将来像に対する共感度は90.5%で、全14テーマのうち8番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「70歳以上」が93.6%で最も多く、次いで「30～39歳」の91.7%、「50～59歳」の91.2%の順となっています。
- 「小・中学生の子どもがいる」回答者の共感度は92.5%で、全体（90.5%）より2.0ポイント上回っているものの、「65歳以上の家族」や「6歳以下の乳幼児」がいる回答者より低くなっています。

図表 全体の共感度



図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	90.0%	40.0%	50.0%	0.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	88.9%	24.8%	64.1%	10.3%	0.9%
	3. 30～39歳 (n=181)	91.7%	38.1%	53.6%	7.2%	0.0%
	4. 40～49歳 (n=269)	87.7%	33.8%	53.9%	8.6%	1.5%
	5. 50～59歳 (n=205)	91.2%	36.6%	54.6%	6.3%	1.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	90.1%	35.1%	55.0%	5.0%	1.2%
	7. 70歳以上 (n=296)	93.6%	38.2%	55.4%	1.4%	1.0%

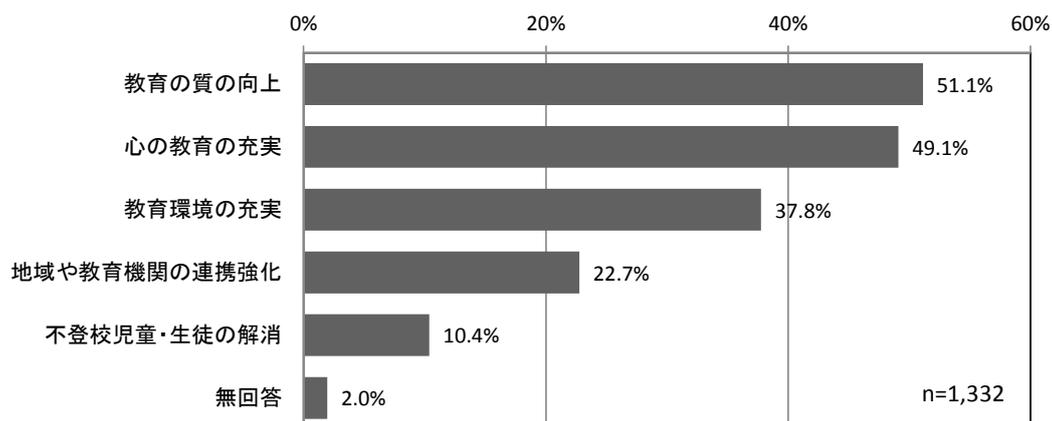
図表 同居家族別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1.	2.	あまり共感できない	共感できない	
同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	94.3%	40.5%	53.8%	5.7%	0.0%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	92.5%	41.5%	50.9%	5.7%	0.0%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	92.8%	36.6%	56.2%	4.1%	0.5%
	4. いない (n=524)	89.1%	33.4%	55.7%	7.1%	2.1%

<優先すべき取組>

- 学校教育においてニーズが高い取組は、「教育の質の向上」が51.1%で最も多く、半数を上回っています。
- 次いで、「心の教育の充実」の49.1%の順となっています。
- 「小・中学生の子どもがいる」回答者は、「教育の質の向上」が59.4%で最も多く、約6割を占めており、次いで「心の教育の充実」の43.9%と「教育環境の充実」が43.4%でほぼ同様の割合となっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 同居家族別の優先すべき取組

		1.	2.	3.	4.	5.
		教育環境の充実	教育の質の向上	地域や教育機関の連携強化	不登校児童・生徒の解消	心の教育の充実
同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	53.8%	57.6%	25.3%	3.2%	39.2%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	43.4%	59.4%	23.6%	5.7%	43.9%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	37.3%	49.5%	22.7%	12.2%	51.2%
	4. いない (n=524)	34.5%	49.4%	20.4%	12.2%	51.9%

<意見・提案等>

- 学校教育の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「個性をのばす教育の重要性」、「ゆとり教育に対する懸念」、「教員の質の向上」などが挙げられています。

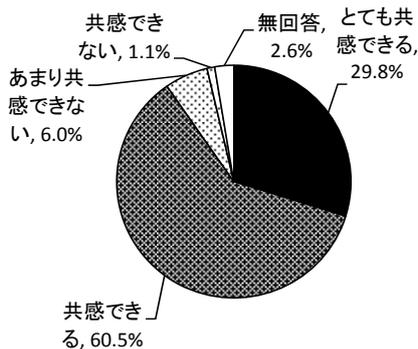
④ 青少年の健全育成

将来像：青少年が地域の中で様々な体験や交流を通じて成長できるまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》
 世代を超えた地域のつながりや、交流の機会を充実させるとともに、学校以外での遊びや体験を通じて人間性や社会性・多様性を身につけ健やかに成長できるまちを目指します。

<将来像に対する共感性>

- 「青少年の健全育成」の将来像に対する共感性は90.3%で、全14テーマのうち9番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「20～29歳」が92.3%で最も多く、青少年と年代が近い層の共感性が高くなっている点が特徴的です。
- 次いで「70歳以上」の91.9%、「30～39歳」の90.6%の順となっています。
- 「小・中学生の子どもがいる」回答者の共感性は92.5%で、全体(90.3%)より2.2ポイント上回っているものの、「6歳以下の乳幼児」や「65歳以上の家族」がいる回答者より低くなっています。

図表 全体の共感性



図表 年齢層別の共感性

		とても共感できる + 共感できる	1. とても共感できる	2. 共感できる	3. あまり共感できない	4. 共感できない
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	80.0%	20.0%	60.0%	10.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	92.3%	29.9%	62.4%	5.1%	0.9%
	3. 30～39歳 (n=181)	90.6%	32.6%	58.0%	7.2%	1.1%
	4. 40～49歳 (n=269)	89.6%	28.3%	61.3%	7.8%	1.1%
	5. 50～59歳 (n=205)	89.3%	26.8%	62.4%	5.9%	1.0%
	6. 60～69歳 (n=242)	89.7%	28.5%	61.2%	5.0%	1.7%
	7. 70歳以上 (n=296)	91.9%	32.1%	59.8%	5.1%	0.3%

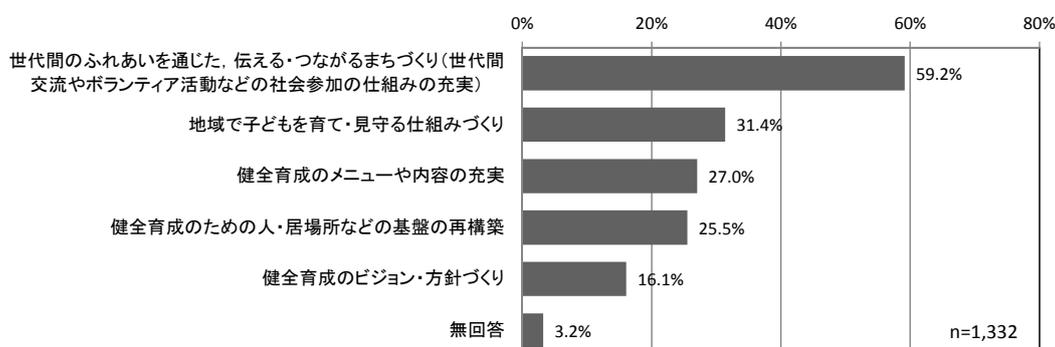
図表 同居家族別の共感度

		とても共感できる + 共感できる	1. とても共感できる	2. 共感できる	3. あまり共感できない	4. 共感できない
同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	94.3%	39.2%	55.1%	2.5%	1.3%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	92.5%	34.0%	58.5%	4.2%	0.9%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	93.1%	28.9%	64.1%	4.3%	0.2%
	4. いない (n=524)	87.8%	27.5%	60.3%	8.6%	1.5%

<優先すべき取組>

- 青少年の健全育成においてニーズが高い取組は、「世代間のふれあいを通じた、伝える・つながるまちづくり（世代間交流やボランティア活動などの社会参加の仕組みの充実）」が 59.2% で最も多く、半数を上回っています。
- 次いで、「地域で子どもを育て・見守る仕組みづくり」の 31.4%の順となっています。
- 「小・中学生の子どもがいる」回答者は、「世代間のふれあいを通じた、伝える・つながるまちづくり（世代間交流やボランティア活動などの社会参加の仕組みの充実）」が 54.7%で最も多くなっています。
- 2番目に多い「地域で子どもを育て・見守る仕組みづくり」は 38.7%で、全体（31.4%）より 7.3ポイント上回っています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 同居家族別の優先すべき取組

		1. 健全育成のビジョン・方針づくり	2. 健全育成のメニューや内容の充実	3. 世代間のふれあいを通じた、伝える・つながるまちづくり	4. 地域で子どもを育て・見守る仕組みづくり	5. 健全育成のための人・居場所などの基盤の再構築
同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	11.4%	34.2%	50.6%	45.6%	26.6%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	14.2%	28.3%	54.7%	38.7%	27.8%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	19.1%	28.0%	63.4%	28.2%	24.6%
	4. いない (n=524)	16.4%	25.6%	59.5%	28.2%	26.0%

<意見・提案等>

- 青少年の健全育成の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「家族や地域交流の重要性」、「考えて行動できる機会の提供」、「ありがたさを感じたり、困っている人と接する機会の確保」などが挙げられています。

⑤ 福祉（地域福祉・高齢福祉・障害者福祉）

将来像：互いに認め支えあい，安心していきいきとして暮らせるまち

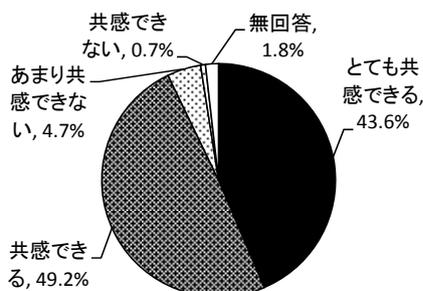
《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》

様々な立場の方へ理解を深め，地域での高齢者・障害者の見守り・サポートを促すことにより，高齢者・障害者が孤立せずに，いきいきとした生活を送ることのできるまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「福祉（地域福祉・高齢福祉・障害者福祉）」の将来像に対する共感度は92.9%で，全14テーマのうち5番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると，「40～49歳」が95.5%で最も多く，次いで「30～39歳」が93.4%，「60～69歳」が93.0%の順となっています。
- 「65歳以上の家族がいる」回答者の共感度は94.3%で，全体（92.9%）より1.4ポイント上回っているものの，「小・中学生の子どもがいる」がいる回答者より低くなっています。

図表 全体の共感度



図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	70.0%	40.0%	30.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	89.7%	34.2%	55.6%	0.9%
	3. 30～39歳 (n=181)	93.4%	39.2%	54.1%	1.7%
	4. 40～49歳 (n=269)	95.5%	41.6%	53.9%	0.7%
	5. 50～59歳 (n=205)	92.7%	41.0%	51.7%	0.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	93.0%	46.3%	46.7%	0.4%
	7. 70歳以上 (n=296)	92.6%	50.3%	42.2%	0.3%

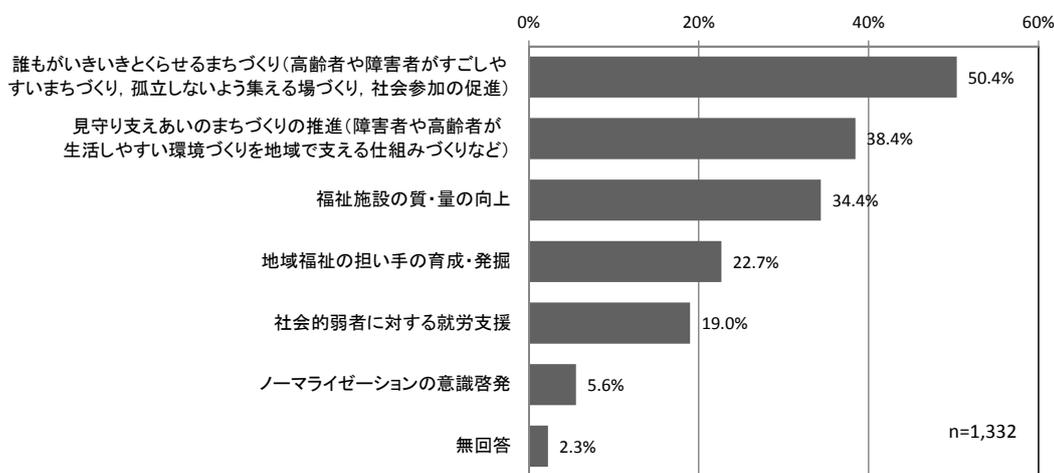
図表 同居家族別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない
同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	93.0%	41.8%	51.3%	0.6%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	95.8%	45.3%	50.5%	0.0%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	94.3%	43.3%	51.0%	0.2%
	4. いない (n=524)	92.0%	42.9%	49.0%	0.8%

<優先すべき取組>

- 福祉においてニーズが高い取組は、「誰もがいきいきとくらせるまちづくり（高齢者や障害者がすごしやすいまちづくり，孤立しないよう集える場づくり，社会参加の促進）」が 50.4%で最も多く，半数を上回っています。
- 次いで、「見守り支えあいのまちづくりの推進（障害者や高齢者が生活しやすい環境づくりを地域で支える仕組みづくりなど）」の 38.4%の順となっています。
- 「65歳以上の家族がいる」回答者は，全体の順位と同様，「誰もがいきいきとくらせるまちづくり（高齢者や障害者がすごしやすいまちづくり，孤立しないよう集える場づくり，社会参加の促進）」が 52.2%で最も多く，次いで，「見守り支えあいのまちづくりの推進（障害者や高齢者が生活しやすい環境づくりを地域で支える仕組みづくりなど）」の 41.4%の順となっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 同居家族別の優先すべき取組

	1. 見守り支えあいのまちづくりの推進(障害者や高齢者が生活しやすい環境づくりを地域で支える仕組みづくりなど)	2. ノーマライゼーションの意識啓発	3. 地域福祉の担い手の育成・発掘	4. 社会的弱者に対する就労支援	5. 誰もがいきいきとくらせるまちづくり(高齢者や障害者がすごしやすいまちづくり, 孤立しないよう集える場づくり, 社会参加の促進)	6. 福祉施設の質・量の向上
同居家族						
1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	35.4%	5.7%	26.6%	20.9%	50.0%	32.3%
2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	35.8%	5.2%	26.9%	21.7%	52.8%	31.1%
3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	41.4%	5.0%	22.5%	16.3%	52.2%	38.0%
4. いない (n=524)	40.8%	5.5%	19.8%	19.3%	49.6%	32.3%

<意見・提案等>

- 福祉の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては，「ボランティアやサポート体制の充実」，「福祉従事者への手厚い支援」，「孤独死への不安」などが挙げられています。

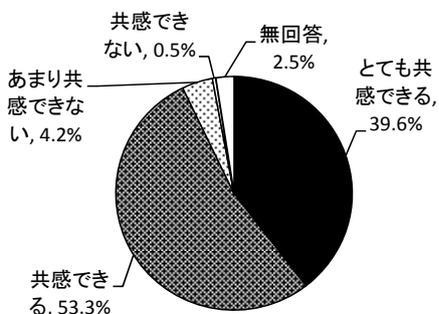
⑥ 健康づくり

将来像：生涯にわたって、心身ともに健康で笑顔あふれる生活を送ることのできるまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》
 積極的に健康づくり活動に取り組むことで、笑顔があふれ、生涯にわたって心身ともに健康で、自分らしい生活を送ることができるまちを目指します。

<将来像に対する共感性>

- 「健康づくり」の将来像に対する共感性は92.9%で、全14テーマのうち4番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「40～49歳」が94.1%で最も多く、次いで「20～29歳」の94.0%、「30～39歳」の93.4%が続いており、20～40歳代の働き盛りの年齢層の共感性が高くなっています。

図表 全体の共感性



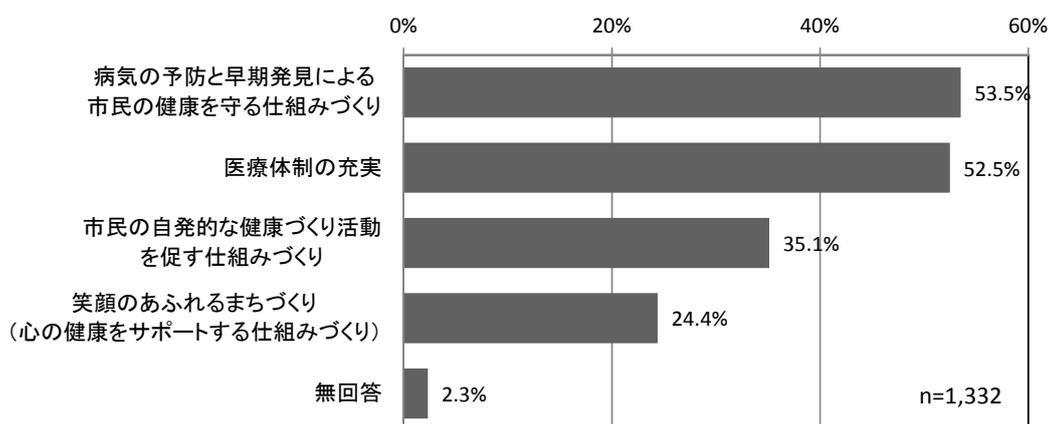
図表 年齢層別の共感性

		とても共感できる + 共感できる		3. あまり共感できない	4. 共感できない	
		1. とても共感できる	2. 共感できる			
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	90.0%	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	94.0%	37.6%	56.4%	6.0%	0.0%
	3. 30～39歳 (n=181)	93.4%	37.6%	55.8%	4.4%	0.6%
	4. 40～49歳 (n=269)	94.1%	35.7%	58.4%	3.7%	0.7%
	5. 50～59歳 (n=205)	90.7%	35.6%	55.1%	5.4%	0.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	93.0%	43.0%	50.0%	3.7%	0.8%
	7. 70歳以上 (n=296)	92.9%	42.9%	50.0%	3.7%	0.0%

<優先すべき取組>

- 健康づくりにおいてニーズが高い取組は、「病気の予防と早期発見による市民の健康を守る仕組みづくり」が53.5%、「医療体制の充実」が52.5%で、いずれも半数を上回っています。
- 次いで、「市民の自発的な健康づくり活動を促す仕組みづくり」の35.1%の順となっています。
- 年齢層別にみると、30～49歳及び70歳以上では、「医療体制の充実」が最も多く、次いで「病気の予防と早期発見による市民の健康を守る仕組みづくり」の順となっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 市民の自発的な健康づくり活動を促す仕組みづくり	2. 笑顔のあふれるまちづくり (心の健康をサポートする仕組みづくり)	3. 病気の予防と早期発見による市民の健康を守る仕組みづくり	4. 医療体制の充実
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	29.1%	23.1%	62.4%	50.4%
	3. 30～39歳 (n=181)	30.9%	24.3%	54.1%	59.7%
	4. 40～49歳 (n=269)	33.8%	23.0%	52.0%	55.8%
	5. 50～59歳 (n=205)	32.7%	24.9%	55.1%	50.2%
	6. 60～69歳 (n=242)	42.1%	24.4%	52.1%	46.3%
	7. 70歳以上 (n=296)	38.2%	24.7%	52.0%	53.7%

<意見・提案等>

- 健康づくりの将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「サークルや社会人向け教室の開催」、「自己責任」、「医療サービスの充実」などが挙げられています。

⑦ スポーツ・レクリエーション

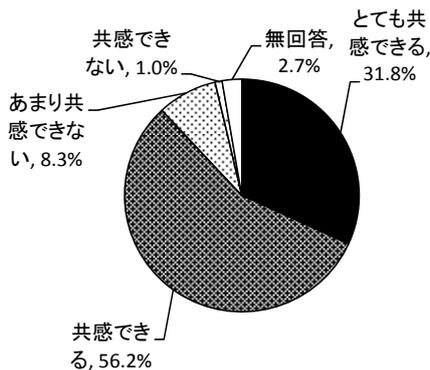
将来像：誰もが気軽にスポーツを楽しみ、集うことにより、市民みんなが元気になるまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》

既存施設の有効活用や利用者の声を反映した施設の整備を進めるとともに、地域に根付いた活動を支援することにより、市民一人ひとりがスポーツ活動をより身近に感じることができるまちを目指します。また、調布ゆかりのチームや選手を、市を挙げて応援する体制を整えることにより、市民が一丸となってスポーツを楽しむまちを目指します。

<将来像に対する共感性>

- 「スポーツ・レクリエーション」の将来像に対する共感性は88.1%で、全14テーマのうち11番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「20～29歳」が92.3%で最も多く、次いで「30～39歳」の91.2%、「40～49歳」の90.3%が続いており、20～40歳代の共感性が高くなっています。
- 一方、50歳以上では、いずれの年齢層においても9割を下回っています。

図表 全体の共感性



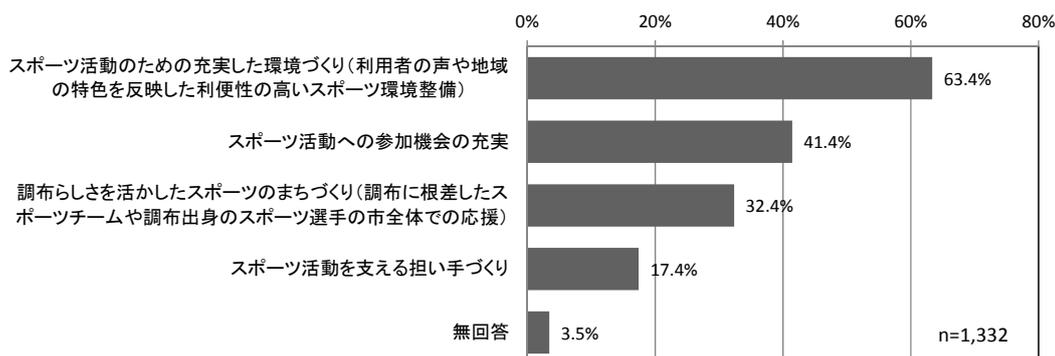
図表 年齢層別の共感性

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	90.0%	50.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	92.3%	31.6%	60.7%	6.8%	0.0%
	3. 30～39歳 (n=181)	91.2%	36.5%	54.7%	6.6%	0.0%
	4. 40～49歳 (n=269)	90.3%	33.8%	56.5%	7.1%	2.6%
	5. 50～59歳 (n=205)	84.4%	30.7%	53.7%	11.7%	1.0%
	6. 60～69歳 (n=242)	87.2%	27.3%	59.9%	8.7%	1.2%
	7. 70歳以上 (n=296)	86.1%	30.7%	55.4%	8.8%	0.3%

<優先すべき取組>

- スポーツ・レクリエーションにおいてニーズが高い取組は、「スポーツ活動のための充実した環境づくり（利用者の声や地域の特色を反映した利便性の高いスポーツ環境整備）」が63.4%で最も多く、6割を上回っています。
- 次いで、「スポーツ活動への参加機会の充実」の41.4%の順となっています。
- 地域別にみると、いずれの地域も「スポーツ活動のための充実した環境づくり」が最も多く、特に西部地域（66.9%）や南部地域の中心市街地（64.4%）が多くなっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 地域別の優先すべき取組

		1. スポーツ活動のための充実した環境づくり	2. スポーツ活動への参加機会の充実	3. スポーツ活動を支える担い手づくり	4. 調布らしさを活かしたスポーツのまちづくり
地域	1. 東部地域 (n=321)	63.2%	43.9%	16.2%	32.1%
	2. 北部地域 (n=290)	62.1%	43.1%	17.6%	31.7%
	3. 南部地域 (中心市街地) (n=177)	64.4%	43.5%	15.8%	34.5%
	4. 南部地域 (中心市街地以外) (n=275)	63.6%	38.5%	19.6%	32.7%
	5. 西部地域 (n=242)	66.9%	38.8%	16.5%	31.0%

<意見・提案等>

- スポーツ・レクリエーションの将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「参加機会の充実」、「味の素スタジアムの活用」、「指導者の育成」などが挙げられています。

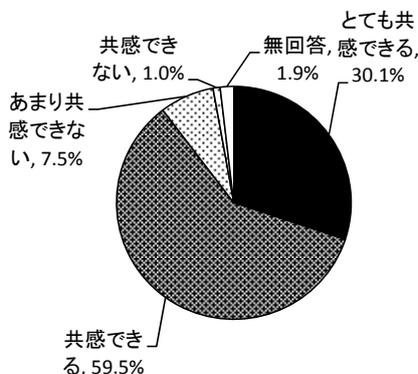
⑧ 生涯学習

将来像：出会いや交流の輪が広がり、すべての世代がいきいきと暮らせるまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》
 既存施設の有効活用や関連団体との連携強化、情報発信の強化など、一人ひとりの生涯学習活動の輪を広げるための支援を行い、生涯学習の気運を高めることにより、すべての人が生きがいを持って学び暮らせるまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「生涯学習」の将来像に対する共感度は89.6%で、全14テーマのうち10番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「30～39歳」が92.8%で最も多く、次いで「70歳以上」の91.2%、「40～49歳」の90.7%が9割を上回っています。

図表 全体の共感度



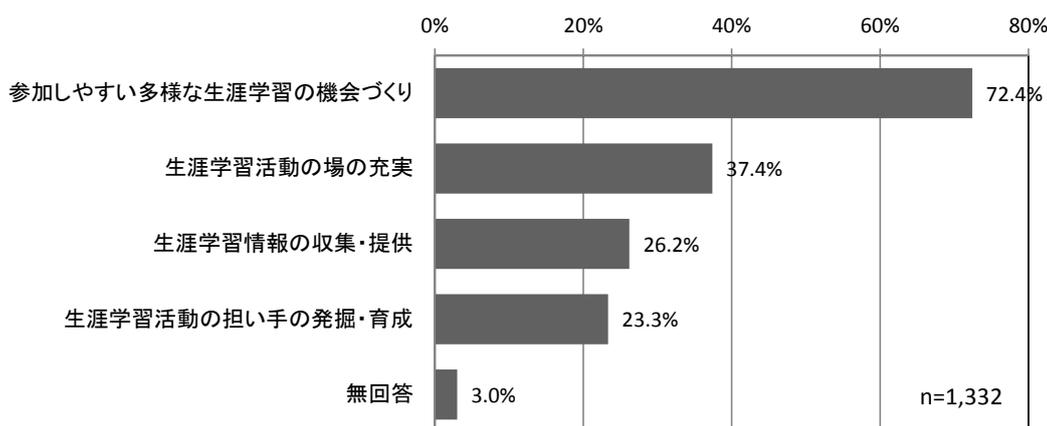
図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	90.0%	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	86.3%	24.8%	61.5%	13.7%	0.0%
	3. 30～39歳 (n=181)	92.8%	27.6%	65.2%	6.6%	0.6%
	4. 40～49歳 (n=269)	90.7%	29.7%	61.0%	7.1%	1.5%
	5. 50～59歳 (n=205)	86.3%	27.8%	58.5%	10.2%	0.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	89.3%	35.5%	53.7%	5.8%	1.2%
	7. 70歳以上 (n=296)	91.2%	30.7%	60.5%	5.4%	1.4%

<優先すべき取組>

- 生涯学習においてニーズが高い取組は、「参加しやすい多様な生涯学習の機会づくり」が72.4%で最も多く、7割を上回っています。
- 次いで、「生涯学習活動の場の充実」の37.4%の順となっています。
- 年齢層別にみると、いずれの年齢層も「参加しやすい多様な生涯学習の機会づくり」が最も多く、次いで、18～19歳及び20歳代では「生涯学習情報の収集・提供」、30歳以上では「生涯学習活動の場の充実」の順となっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 参加しやすい多様な生涯学習の機会づくり	2. 生涯学習活動の場の充実	3. 生涯学習情報の収集・提供	4. 生涯学習活動の担い手の発掘・育成
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	60.0%	10.0%	50.0%	20.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	64.1%	34.2%	43.6%	18.8%
	3. 30～39歳 (n=181)	66.9%	44.8%	28.2%	19.3%
	4. 40～49歳 (n=269)	72.1%	42.0%	24.2%	19.3%
	5. 50～59歳 (n=205)	74.6%	37.6%	20.0%	23.4%
	6. 60～69歳 (n=242)	76.0%	31.8%	28.1%	25.2%
	7. 70歳以上 (n=296)	75.7%	36.1%	22.6%	29.1%

<意見・提案等>

- 生涯学習の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「場所の確保」、「情報発信の充実」などの要望がある一方、「実態が分からない」という声も多く挙げられています。

⑨ 地域コミュニティ

将来像：地域のつながりや連帯感を大切にし、誰もがぬくもりに触れ合えるまち

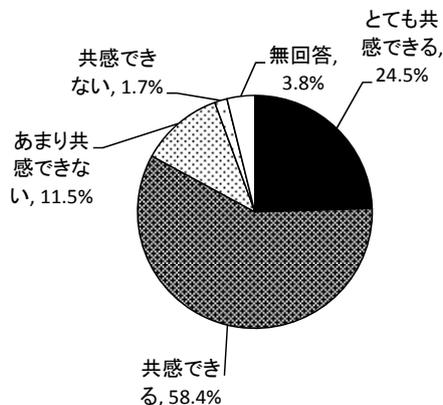
《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》

地域に開かれた場づくりや顔が見えるネットワークづくりを進めることにより、一人ひとりが地域コミュニティの大切さを理解し、地域すべての人がコミュニティ活動に参加している、地域のつながりや連帯感が強く、ぬくもりに触れ合えるまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「地域コミュニティ」の将来像に対する共感度は83.0%で、全14テーマのうち最も低くなっています。
- 年齢層別にみると、「60～69歳」が86.4%で最も多く、次いで「30～39歳」の85.6%、「70歳以上」の83.8%の順となっています。
- 地域別にみると、「北部地域」が85.2%で最も多く、次いで「南部地域（中心市街地以外）」の84.0%、「西部地域」の82.6%の順となっています。

図表 全体の共感度



図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	70.0%	10.0%	60.0%	0.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	80.3%	22.2%	58.1%	18.8%	0.9%
	3. 30～39歳 (n=181)	85.6%	28.7%	56.9%	11.0%	1.7%
	4. 40～49歳 (n=269)	82.9%	23.4%	59.5%	12.6%	2.2%
	5. 50～59歳 (n=205)	78.5%	21.0%	57.6%	14.6%	2.9%
	6. 60～69歳 (n=242)	86.4%	25.2%	61.2%	7.9%	1.7%
	7. 70歳以上 (n=296)	83.8%	27.0%	56.8%	9.1%	0.3%

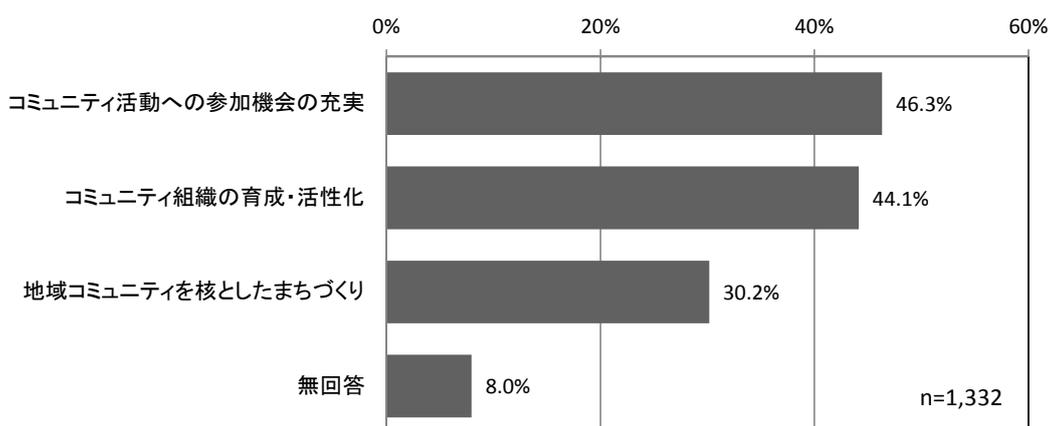
図表 地域別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
地域	1. 東部地域 (n=321)	81.9%	24.3%	57.6%	10.9%	2.5%
	2. 北部地域 (n=290)	85.2%	25.9%	59.3%	10.7%	1.7%
	3. 南部地域（中心市街地） (n=177)	81.9%	21.5%	60.5%	11.9%	1.1%
	4. 南部地域（中心市街地以外） (n=275)	84.0%	24.4%	59.6%	11.6%	1.5%
	5. 西部地域 (n=242)	82.6%	27.3%	55.4%	12.4%	1.2%

<優先すべき取組>

- 地域コミュニティにおいてニーズが高い取組は、「コミュニティ活動への参加機会の充実」が46.3%で最も多く、次いで「コミュニティ組織の育成・活性化」の44.1%の順となっています。
- 年齢層別にみると、18～20歳代及び40～50歳代は「コミュニティ活動への参加機会の充実」、30歳代及び60歳以上は「コミュニティ組織の育成・活性化」が最も多くなっています。
- 地域別にみると、東部地域及び西部地域は「コミュニティ活動への参加機会の充実」、北部地域及び南部地域は「コミュニティ組織の育成・活性化」が最も多くなっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. コミュニティ 組織の育成・ 活性化	2. コミュニティ 活動への参加 機会の充実	3. 地域コミュニ ティを核とし たまちづくり
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	30.0%	60.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	43.6%	56.4%	19.7%
	3. 30～39歳 (n=181)	47.0%	44.2%	25.4%
	4. 40～49歳 (n=269)	41.6%	46.5%	27.9%
	5. 50～59歳 (n=205)	41.0%	45.4%	30.2%
	6. 60～69歳 (n=242)	45.5%	44.2%	35.1%
	7. 70歳以上 (n=296)	47.6%	46.3%	35.5%

図表 地域別の優先すべき取組

		1. コミュニティ 組織の育成・ 活性化	2. コミュニティ 活動への参加 機会の充実	3. 地域コミュニ ティを核とし たまちづくり
地域	1. 東部地域 (n=321)	42.4%	48.6%	29.0%
	2. 北部地域 (n=290)	47.9%	44.5%	31.0%
	3. 南部地域 (中心市街地) (n=177)	45.2%	44.1%	29.9%
	4. 南部地域 (中心市街地以外) (n=275)	45.8%	45.5%	31.6%
	5. 西部地域 (n=242)	41.3%	50.0%	28.5%

<意見・提案等>

- 地域コミュニティの将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「ネットワークの強化」、「機会と情報の充実」、「祭りなどのイベントの支援」などが挙げられています。

⑩ 産業・観光振興

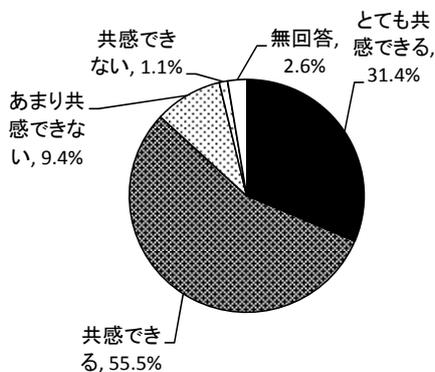
将来像：みんなが愛着と誇りをもてる“これぞ調布”という地域の特色がきらりと光るまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》

商店街の活性化や企業誘致，都市農業の振興，地域資源の発掘・活用など，地域の特色を生かしたまちづくりを進めるとともに，「これぞ調布」というまちの資源を磨き上げることにより，市民が地元へ愛着を持ち，観光客からもまた訪れたいと思われるまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「産業・観光振興」の将来像に対する共感度は86.9%で，全14テーマのうち下から3番目となっています。
- 年齢層別にみると，「30～39歳」が89.0%で最も多いものの，9割を下回っています。
- 次いで「40～49歳」の88.8%，「70歳以上」の87.8%の順となっています。

図表 全体の共感度



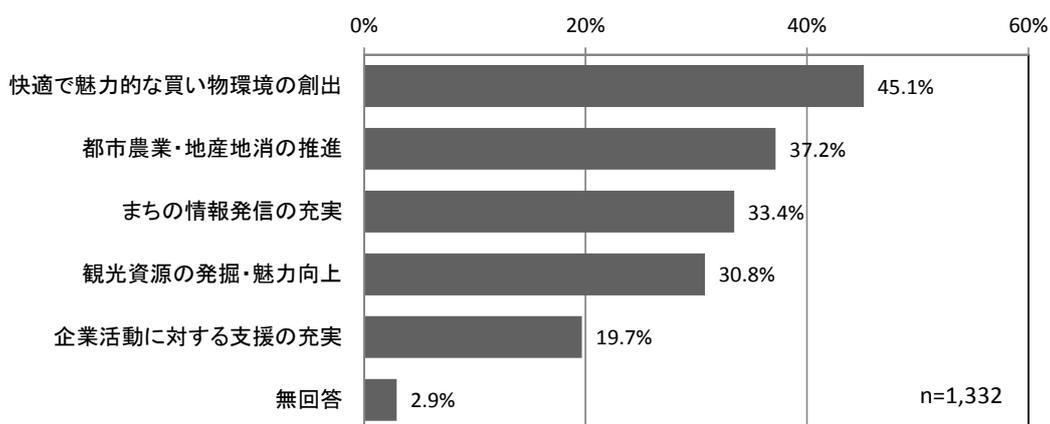
図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	80.0%	40.0%	40.0%	0.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	85.5%	35.0%	50.4%	10.3%	2.6%
	3. 30～39歳 (n=181)	89.0%	33.1%	55.8%	9.4%	0.0%
	4. 40～49歳 (n=269)	88.8%	33.1%	55.8%	9.3%	1.1%
	5. 50～59歳 (n=205)	83.4%	24.9%	58.5%	11.7%	2.4%
	6. 60～69歳 (n=242)	86.8%	31.8%	55.0%	8.3%	0.8%
	7. 70歳以上 (n=296)	87.8%	30.7%	57.1%	8.4%	0.3%

<優先すべき取組>

- 産業・観光振興においてニーズが高い取組は、「快適で魅力的な買い物環境の創出」が45.1%で最も多く、次いで「都市農業・地産地消の推進」の37.2%の順となっています。
- 年齢層別にみると、いずれの年齢層も「快適で魅力的な買い物環境の創出」が最も多く、次いで、18～19歳及び30歳代では「観光資源の発掘・魅力向上」、それ以外の年齢層では「都市農業・地産地消の推進」の順となっています。
- 地域別にみると、いずれの地域も「快適で魅力的な買い物環境の創出」が最も多く、次いで、南部地域（中心市街地）では「まちの情報発信の充実」、それ以外の地域では「都市農業・地産地消の推進」の順となっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 観光資源の 発掘・魅力 向上	2. まちの情報 発信の充実	3. 快適で魅力 的な買い物 環境の創出	4. 企業活動に 対する支援 の充実	5. 都市農業・ 地産地消の 推進
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	40.0%	0.0%	60.0%	30.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	35.9%	29.1%	43.6%	17.9%	36.8%
	3. 30～39歳 (n=181)	34.8%	29.3%	55.8%	22.1%	33.1%
	4. 40～49歳 (n=269)	31.6%	36.4%	42.0%	20.8%	39.8%
	5. 50～59歳 (n=205)	30.7%	28.8%	48.3%	17.1%	35.6%
	6. 60～69歳 (n=242)	26.9%	36.0%	41.7%	19.8%	38.8%
	7. 70歳以上 (n=296)	28.7%	37.5%	42.9%	19.3%	38.2%

図表 地域別の優先すべき取組

		1. 観光資源の 発掘・魅力 向上	2. まちの情報 発信の充実	3. 快適で魅力 的な買い物 環境の創出	4. 企業活動に 対する支援 の充実	5. 都市農業・ 地産地消の 推進
地域	1. 東部地域 (n=321)	28.7%	34.6%	40.8%	22.1%	37.7%
	2. 北部地域 (n=290)	30.3%	33.8%	43.1%	19.0%	40.0%
	3. 南部地域（中心市街地） (n=177)	31.1%	40.1%	50.8%	14.7%	31.6%
	4. 南部地域（中心市街地以外） (n=275)	32.0%	25.8%	48.4%	22.5%	36.4%
	5. 西部地域 (n=242)	33.9%	35.5%	44.6%	17.8%	38.0%

<意見・提案等>

- 産業・観光振興の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「商店街の活性化」、「観光資源のPR」、「農業・自然の保護」などが挙げられています。

⑪ 芸術・歴史文化

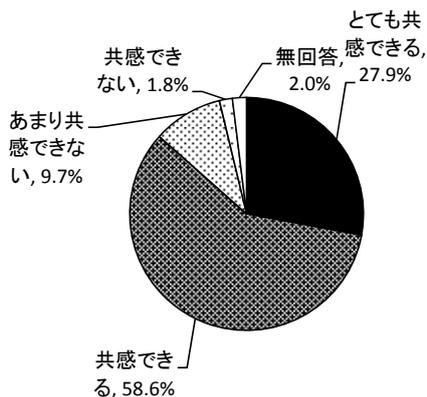
将来像：調布らしい芸術・歴史文化が身近に感じられ、新たな世代に受け継がれていくまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》

映画など独自の芸術・文化や各地域の歴史的資源のさらなる活用を図り、市民の誇りと愛着を醸成するとともに、子どもの頃から芸術・歴史文化に触れる機会を創出することにより、未来を担う新たな世代に調布らしい芸術・歴史文化が伝承されるまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「芸術・歴史文化」の将来像に対する共感度は86.6%で、全14テーマのうち下から2番目となっています。
- 年齢層別にみると、「30～39歳」が90.1%で最も多く、次いで「40～49歳」の89.2%、「20～29歳」の86.3%が続いており、20～40歳代の共感度が高くなっています。
- 特に、「30～39歳代」(90.1%)は9割を上回っており、全体(86.6%)より3.5ポイント多くなっています。

図表 全体の共感度



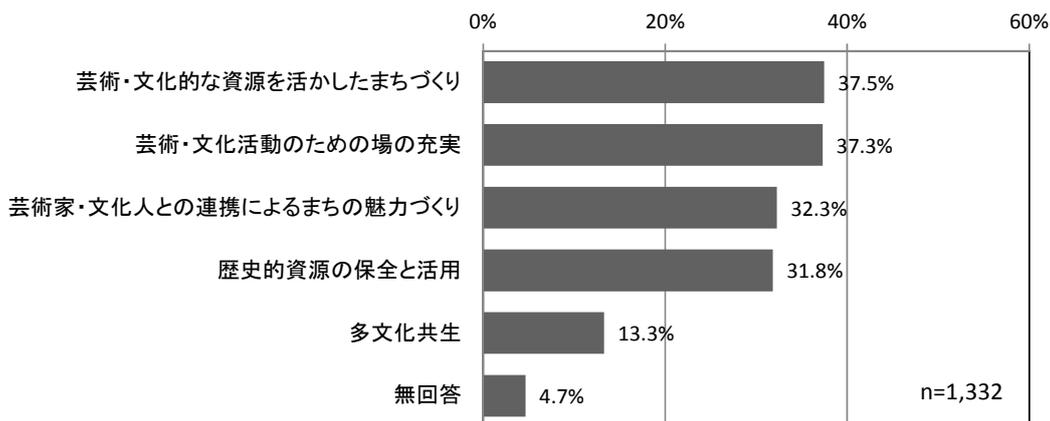
図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	70.0%	20.0%	50.0%	20.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	86.3%	23.9%	62.4%	11.1%	2.6%
	3. 30～39歳 (n=181)	90.1%	30.9%	59.1%	8.8%	0.6%
	4. 40～49歳 (n=269)	89.2%	31.6%	57.6%	8.2%	2.6%
	5. 50～59歳 (n=205)	85.9%	28.3%	57.6%	10.7%	2.0%
	6. 60～69歳 (n=242)	84.3%	24.0%	60.3%	9.9%	2.1%
	7. 70歳以上 (n=296)	85.8%	27.4%	58.4%	9.8%	1.0%

<優先すべき取組>

- 芸術・歴史文化においてニーズが高い取組は、「芸術・文化的な資源を活かしたまちづくり」が 37.5%で最も多く、次いで「芸術・文化活動のための場の充実」の 37.3%の順となっています。
- 年齢層別にみると、18～19 歳は「芸術家・文化人との連携によるまちの魅力づくり」、20 歳代及び 50 歳以上は「芸術・文化的な資源を活かしたまちづくり」、30～40 歳代は「芸術・文化活動のための場の充実」が最も多く、年齢層によって優先度が異なります。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 芸術・文化活動のための場の充実	2. 芸術・文化的な資源を活かしたまちづくり	3. 歴史的資源の保全と活用	4. 芸術家・文化人との連携によるまちの魅力づくり	5. 多文化共生
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	40.0%	0.0%	40.0%	50.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	32.5%	40.2%	34.2%	26.5%	12.8%
	3. 30～39歳 (n=181)	40.9%	33.7%	29.8%	39.8%	11.6%
	4. 40～49歳 (n=269)	40.9%	39.4%	30.5%	33.1%	10.4%
	5. 50～59歳 (n=205)	35.6%	39.0%	30.2%	29.3%	12.2%
	6. 60～69歳 (n=242)	35.5%	38.8%	31.4%	30.2%	15.7%
	7. 70歳以上 (n=296)	36.5%	36.8%	35.1%	32.8%	15.2%

<意見・提案等>

- 芸術・歴史文化の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「映画のまちづくり」、「芸術とふれあう機会づくり」、「歴史の保全」などが挙げられています。

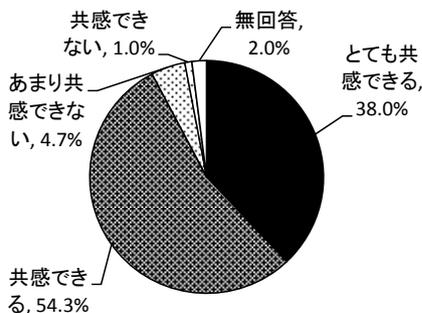
⑫ 市街地整備（住環境・街並み・景観）

将来像：多世代がいつまでも快適に暮らせる、くつろぎとふれあいに満ちたまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》
 子どもからお年寄りまで、だれもが気軽に憩える住環境を目指すとともに、まちに誇りと愛着を持って活気と魅力あるまちづくりを進めることにより、多様な世代がいつまでもくつろぎとふれあいに満ちた空間の中で、快適に暮らし続けることができるまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「市街地整備（住環境・街並み・景観）」の将来像に対する共感度は92.3%で、全14テーマのうち7番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「30～39歳」が93.4%で最も多く、次いで「40～49歳」の93.3%、「60～69歳」の93.0%の順となっています。
- 地域別にみると、「南部地域（中心市街地）」が96.0%で最も多く、最も低い「東部地域」の88.2%より7.8ポイント高くなっています。

図表 全体の共感度



図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	90.0%	60.0%	30.0%	0.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	90.6%	38.5%	52.1%	6.8%	2.6%
	3. 30～39歳 (n=181)	93.4%	44.2%	49.2%	3.9%	0.6%
	4. 40～49歳 (n=269)	93.3%	36.4%	56.9%	4.5%	1.1%
	5. 50～59歳 (n=205)	89.8%	34.1%	55.6%	6.8%	1.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	93.0%	37.6%	55.4%	2.9%	1.2%
	7. 70歳以上 (n=296)	92.9%	37.8%	55.1%	5.1%	0.0%

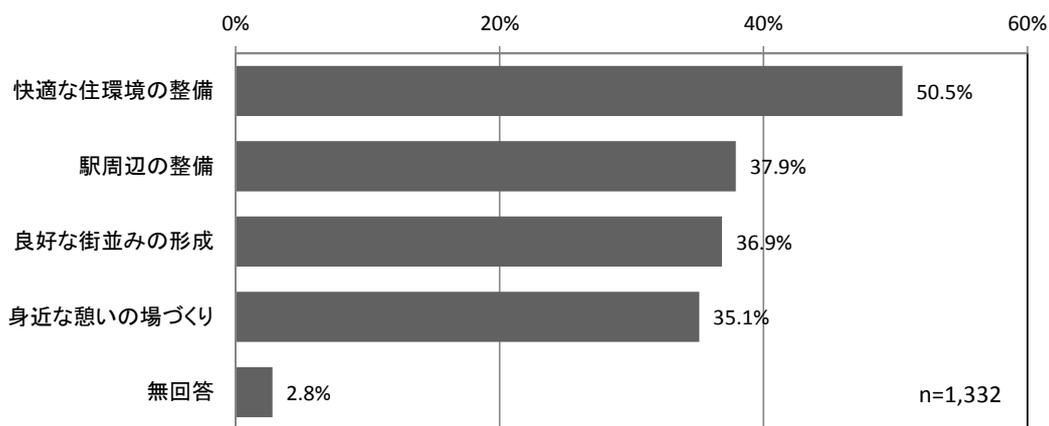
図表 地域別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
地域	1. 東部地域 (n=321)	88.2%	33.3%	54.8%	7.2%	0.9%
	2. 北部地域 (n=290)	93.8%	42.8%	51.0%	4.1%	0.7%
	3. 南部地域（中心市街地） (n=177)	96.0%	39.5%	56.5%	2.8%	1.1%
	4. 南部地域（中心市街地以外） (n=275)	93.5%	36.7%	56.7%	3.6%	1.1%
	5. 西部地域 (n=242)	93.0%	39.7%	53.3%	5.0%	1.2%

<優先すべき取組>

- 市街地整備においてニーズが高い取組は、「快適な住環境の整備」が50.5%で最も多く、半数を上回っています。
- 次いで「駅周辺の整備」の37.9%の順となっています。
- 年齢層別にみると、18～19歳は「駅周辺の整備」、20歳以上は「快適な住環境の整備」が最も多くなっています。
- 地域別にみると、いずれの地域も「快適な住環境の整備」が最も多く、次いで、東部地域及び北部地域では「良好な街並みの形成」、それ以外の地域では「駅周辺の整備」の順となっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 身近な憩いの場づくり	2. 良好な街並みの形成	3. 快適な住環境の整備	4. 駅周辺の整備
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	20.0%	30.0%	20.0%	70.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	35.9%	38.5%	47.9%	38.5%
	3. 30～39歳 (n=181)	32.0%	43.1%	51.9%	40.3%
	4. 40～49歳 (n=269)	24.2%	39.8%	55.8%	41.6%
	5. 50～59歳 (n=205)	32.2%	32.2%	49.3%	40.0%
	6. 60～69歳 (n=242)	36.8%	38.0%	50.0%	33.5%
	7. 70歳以上 (n=296)	48.0%	32.4%	49.0%	34.8%

図表 地域別の優先すべき取組

		1. 身近な憩いの場づくり	2. 良好な街並みの形成	3. 快適な住環境の整備	4. 駅周辺の整備
地域	1. 東部地域 (n=321)	33.0%	37.4%	53.0%	32.1%
	2. 北部地域 (n=290)	35.2%	39.7%	51.4%	39.0%
	3. 南部地域 (中心市街地) (n=177)	31.1%	38.4%	52.5%	45.8%
	4. 南部地域 (中心市街地以外) (n=275)	39.6%	33.8%	45.8%	39.6%
	5. 西部地域 (n=242)	35.5%	36.0%	51.2%	38.8%

<意見・提案等>

- 市街地整備の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「駅前の整備」、「公園の整備」、「計画的な景観整備」などが挙げられています。

⑬ 道路・交通

将来像：だれもが便利で安全・安心に移動できる、良好な交通環境のあるまち

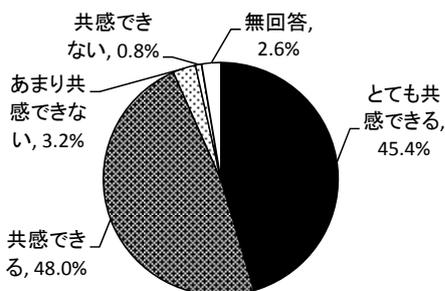
《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》

地域の特性を踏まえつつ、幹線道路や生活道路の整備充実を図り、歩行者と自転車利用者の双方にとって快適な通行空間を確保するとともに、公共交通及び駅周辺の交通利便性の向上などを総合的に進めることによって、だれもが便利で安全・安心に移動できる良好な交通環境が整ったまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「道路・交通」の将来像に対する共感度は93.4%で、全14テーマのうち3番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「18～19歳」が100.0%で最も多く、次いで「30～39歳」の95.6%、「40～49歳」の94.4%の順となっています。
- 地域別にみると、「南部地域（中心市街地）」が94.9%で最も多く、次いで「北部地域」の94.5%、「東部地域」の93.8%の順となっています。

図表 全体の共感度



図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	92.3%	45.3%	47.0%	5.1%	0.9%
	3. 30～39歳 (n=181)	95.6%	54.1%	41.4%	2.8%	1.1%
	4. 40～49歳 (n=269)	94.4%	43.9%	50.6%	3.0%	1.5%
	5. 50～59歳 (n=205)	94.1%	42.9%	51.2%	2.4%	2.0%
	6. 60～69歳 (n=242)	93.4%	44.2%	49.2%	2.9%	0.0%
	7. 70歳以上 (n=296)	92.2%	44.3%	48.0%	3.4%	0.0%

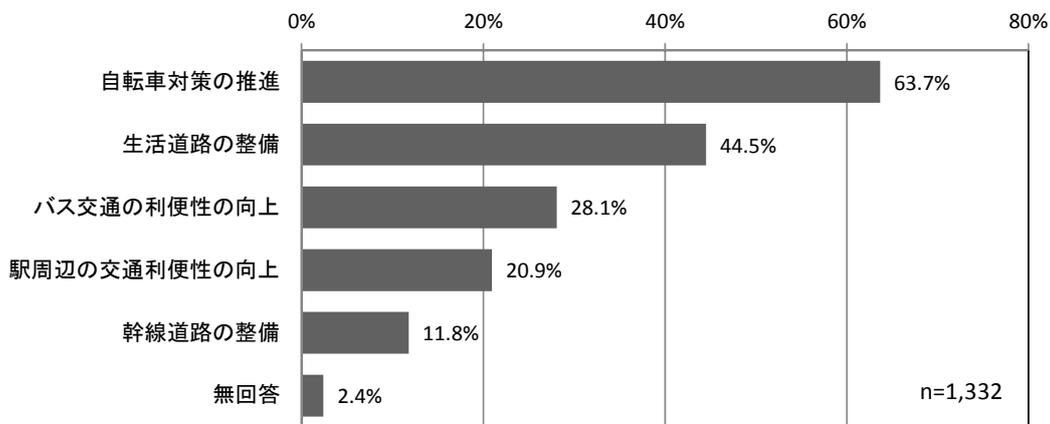
図表 地域別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3.	4.	
		1. とても共感できる	2. 共感できる	あまり共感できない	共感できない	
地域	1. 東部地域 (n=321)	93.8%	39.9%	53.9%	1.9%	1.2%
	2. 北部地域 (n=290)	94.5%	48.6%	45.9%	3.1%	0.3%
	3. 南部地域（中心市街地） (n=177)	94.9%	44.6%	50.3%	2.3%	1.1%
	4. 南部地域（中心市街地以外） (n=275)	93.5%	45.8%	47.6%	3.3%	0.4%
	5. 西部地域 (n=242)	92.1%	50.0%	42.1%	5.4%	1.2%

<優先すべき取組>

- 道路・交通においてニーズが高い取組は、「自転車対策の推進」が63.7%で最も多く、6割を上回っています。
- 次いで、「生活道路の整備」の44.5%の順となっています。
- 年齢層別にみると、いずれの年齢層も「自転車対策の推進」が最も多く、次いで、「生活道路の整備」の順（ただし、18～19歳は「バス交通の利便性の向上」が同率2位）となっています。
- 地域別にみると、いずれの地域も「自転車対策の推進」が最も多く、特に南部地域の中心市街地（72.9%）が多くなっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 幹線道路の整備	2. 生活道路の整備	3. 自転車対策の推進	4. バス交通の利便性の向上	5. 駅周辺の交通利便性の向上
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	20.0%	30.0%	70.0%	30.0%	20.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	12.0%	39.3%	59.0%	30.8%	25.6%
	3. 30～39歳 (n=181)	11.6%	43.1%	69.1%	24.3%	19.9%
	4. 40～49歳 (n=269)	13.4%	40.5%	61.7%	29.0%	22.7%
	5. 50～59歳 (n=205)	10.7%	43.4%	68.8%	24.4%	24.9%
	6. 60～69歳 (n=242)	11.6%	49.2%	64.0%	24.4%	16.5%
	7. 70歳以上 (n=296)	10.8%	49.0%	60.1%	34.8%	19.3%

図表 地域別の優先すべき取組

		1. 幹線道路の整備	2. 生活道路の整備	3. 自転車対策の推進	4. バス交通の利便性の向上	5. 駅周辺の交通利便性の向上
地域	1. 東部地域 (n=321)	10.3%	43.3%	58.9%	31.2%	20.2%
	2. 北部地域 (n=290)	12.1%	40.3%	63.8%	37.6%	19.3%
	3. 南部地域 (中心市街地) (n=177)	11.3%	50.3%	72.9%	15.8%	23.2%
	4. 南部地域 (中心市街地以外) (n=275)	12.4%	45.8%	63.6%	24.0%	20.4%
	5. 西部地域 (n=242)	12.8%	45.0%	64.0%	28.1%	22.7%

<意見・提案等>

- 道路・交通の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「歩道の整備」、「路線バスの充実」、「路上駐車対策」などが挙げられています。

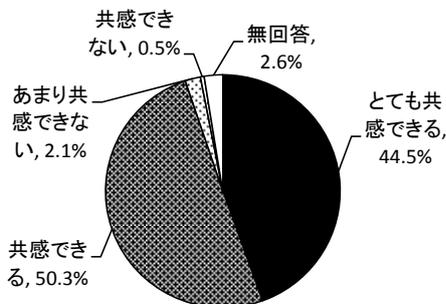
⑭ 水・緑・環境保全

将来像：豊かな自然や身近な緑を大切に守り、育て、人と自然が共に生きるまち
 《将来像に込められた10年後のあるべきまちの姿》
 豊かでうるおいのある自然環境を将来世代に継承するため、身近な緑を大切に守り、育てるとともに、市民・事業者・行政などが連携し、各主体の役割に応じた環境にやさしい取組を進めることによって、人と自然が共生するまちを目指します。

<将来像に対する共感度>

- 「水・緑・環境保全」の将来像に対する共感度は94.8%で、全14テーマのうち2番目に高くなっています。
- 年齢層別にみると、「20～29歳」が96.6%で最も多く、次いで「60～69歳」の95.9%、「30～39歳」の95.6%の順となっています。

図表 全体の共感度



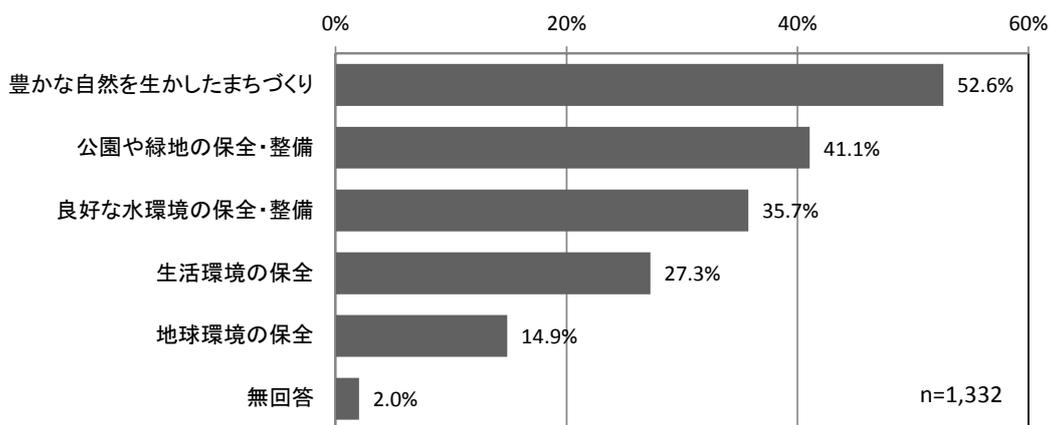
図表 年齢層別の共感度

		とても共感できる + 共感できる		3. あまり共感できない	4. 共感できない	
		1. とても共感できる	2. 共感できる			
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	80.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	96.6%	45.3%	51.3%	1.7%	0.9%
	3. 30～39歳 (n=181)	95.6%	42.5%	53.0%	2.8%	0.0%
	4. 40～49歳 (n=269)	94.8%	40.5%	54.3%	1.9%	1.1%
	5. 50～59歳 (n=205)	93.7%	44.4%	49.3%	2.9%	0.5%
	6. 60～69歳 (n=242)	95.9%	49.2%	46.7%	1.2%	0.8%
	7. 70歳以上 (n=296)	94.9%	45.6%	49.3%	2.4%	0.0%

<優先すべき取組>

- 水・緑・環境保全においてニーズが高い取組は、「豊かな自然を生かしたまちづくり」が 52.6% で最も多く、半数を上回っています。
- 次いで、「公園や緑地の保全・整備」の 41.1%の順となっています。
- 年齢層別にみると、18歳～30歳代では「公園や緑地の保全・整備」、40歳以上では「豊かな自然を生かしたまちづくり」が最も多くなっています。
- 地域別にみると、いずれの地域も「豊かな自然を生かしたまちづくり」が最も多く、特に北部地域（56.9%）や南部地域の中心市街地以外（56.0%）が多くなっています。

図表 優先すべき取組の順位



図表 年齢層別の優先すべき取組

		1. 豊かな自然を生かしたまちづくり	2. 公園や緑地の保全・整備	3. 良好な水環境の保全・整備	4. 生活環境の保全	5. 地球環境の保全
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	30.0%	80.0%	20.0%	10.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	45.3%	51.3%	35.9%	27.4%	12.0%
	3. 30～39歳 (n=181)	42.0%	53.0%	38.7%	26.5%	17.1%
	4. 40～49歳 (n=269)	49.1%	41.6%	32.0%	27.9%	16.7%
	5. 50～59歳 (n=205)	53.7%	40.5%	35.6%	25.4%	17.6%
	6. 60～69歳 (n=242)	61.6%	32.2%	37.2%	28.9%	13.2%
	7. 70歳以上 (n=296)	58.1%	35.8%	36.8%	28.4%	12.2%

図表 地域別の優先すべき取組

		1. 豊かな自然を生かしたまちづくり	2. 公園や緑地の保全・整備	3. 良好な水環境の保全・整備	4. 生活環境の保全	5. 地球環境の保全
地域	1. 東部地域 (n=321)	47.7%	43.9%	38.0%	24.9%	15.6%
	2. 北部地域 (n=290)	56.9%	37.2%	35.2%	30.7%	16.6%
	3. 南部地域 (中心市街地) (n=177)	48.0%	46.3%	36.2%	32.2%	12.4%
	4. 南部地域 (中心市街地以外) (n=275)	56.0%	37.5%	35.3%	26.5%	14.2%
	5. 西部地域 (n=242)	54.1%	43.0%	34.3%	23.6%	14.5%

<意見・提案等>

- 水・緑・環境保全の将来像や取組に関する具体的な意見・提案等としては、「深大寺地域の整備・活用」、「野川・湧水の保全」、「公園等への植樹」などが挙げられています。

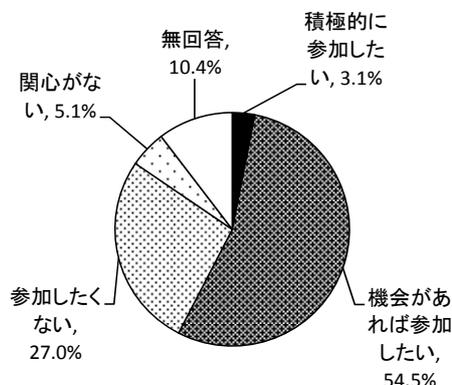
3 総合計画策定への参加意向

問 29) あなたは今後、調布市の新たな総合計画づくりに参加したいと思いますか。

<全体 (n=1,332) >

○新たな総合計画づくりに「積極的に参加したい」は 3.1%、「機会があれば参加したい」は 54.5%であり、合計すると 57.6%で約 6 割となっています。

図表 全体の参加意向



<性別>

○性別にみると、「参加したい」は男女とも過半数を占めており、特に男性（61.4%）が女性（55.6%）を 5.8 ポイント上回っています。

図表 性別の参加意向

		参加したい	1. 積極的に参加したい	2. 機会があれば参加したい	3. 参加したくない	4. 関心がない
性別	1. 男性 (n=511)	61.4%	4.7%	56.8%	23.1%	5.7%
	2. 女性 (n=798)	55.6%	2.1%	53.5%	29.6%	4.8%

<年齢層別>

○年齢層別にみると、「30～39 歳」が 68.0%で最も多く、次いで「40～49 歳」の 65.4%、「50～59 歳」の 60.0%が続いており、いわゆる「現役世代」と呼ばれる年齢層の参加意向が高くなっています。

○今後、計画づくりを進めるにあたっては、これらの参加意向を、実際の市民参加につなげるための工夫を行うことが必要です。

図表 年齢層別の参加意向

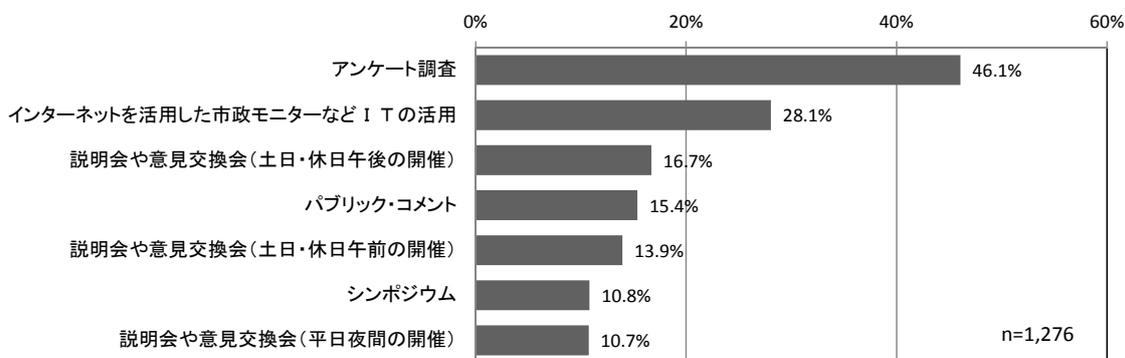
		参加したい	1. 積極的に参加したい	2. 機会があれば参加したい	3. 参加したくない	4. 関心がない
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	50.0%	0.0%	50.0%	20.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	53.0%	4.3%	48.7%	25.6%	17.1%
	3. 30～39歳 (n=181)	68.0%	1.7%	66.3%	22.7%	3.3%
	4. 40～49歳 (n=269)	65.4%	4.8%	60.6%	26.0%	3.7%
	5. 50～59歳 (n=205)	60.0%	2.9%	57.1%	26.8%	5.4%
	6. 60～69歳 (n=242)	52.9%	2.9%	50.0%	30.2%	3.7%
	7. 70歳以上 (n=296)	48.6%	2.4%	46.3%	29.4%	3.7%

問30) 問29で「1 積極的に参加したい」、「2 機会があれば参加したい」を選んだ方にかかいます。あなたはどのような手法で参加できますか。また、どのような参加手法をとれば、より多くの市民の意見が行政に届きやすいと思いますか。あてはまるものに〇をつけてください。(※複数回答可)

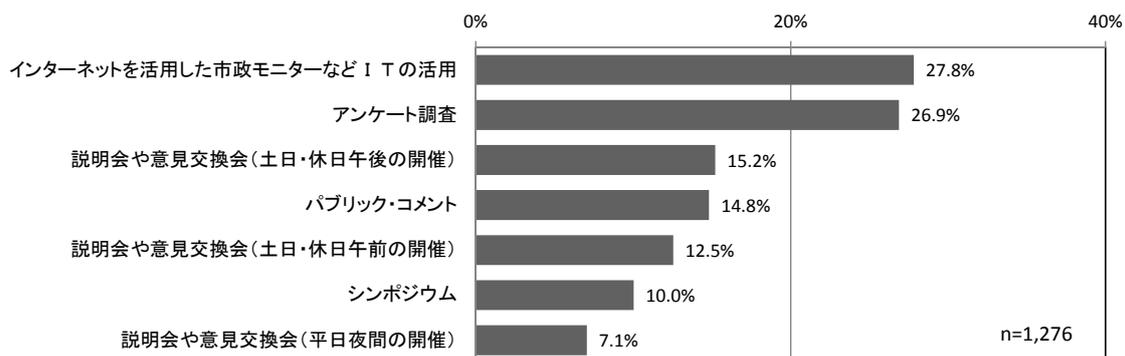
<全体 (n=767) >

- 総合計画策定への参加について、回答者が参加できると思う手法は、「アンケート調査」が46.1%で最も多く、アンケート調査の有効性が高いことが分かります。
- 次いで「インターネットを活用した市政モニターなどITの活用」の28.1%、「説明会や意見交換会(土日・休日午前の開催)」の16.7%の順となっています。
- その他の具体的な手法としては、「メールマガジン」、「ツイッター」、「フェイスブック」などが提案されています。
- 一方、より多くの市民の意見が行政に届きやすいと思う手法は、「インターネットを活用した市政モニターなどITの活用」が27.8%で最も多く、今後、さらなるITの有効活用が求められています。
- 説明会や意見交換会については、「土日・休日午後の開催」が15.2%で最も多く、次いで「土日・休日午前の開催」の12.5%が続いており、「平日夜間の開催」は7.1%で1割を下回っています。
- その他の具体的な手法としては、「提案書」、「パネルディスカッション」などが提案されています。

図表 「参加できる」手法の順位



図表 「より多くの市民の意見が行政に届きやすい」手法の順位



第2章 調査結果 <総合計画策定への参加意向>

<性別>

○参加できると思う手法は、男女ともに「アンケート調査」、「インターネットを活用した市政モニターなどITの活用」の順で多く、次いで、男性は「パブリック・コメント」、女性は「説明会や意見交換会（土日・休日午後の開催）」の順となっています。

図表 性別の「参加できる」手法

		1. 説明会や 意見交換 会（平日 夜間の開 催）	2. 説明会や 意見交換 会（土 日・休日 午前の開 催）	3. 説明会や 意見交換 会（土 日・休日 午後の開 催）	4. アンケ ー ト 調 査	5. パブリ ック・コ メ ン ト	6. シンポ ジ ウ ム	7. インテ ー ネ ッ ト を 活 用 し た 市 政 モ ニ タ ー な ど I T の 活 用
性 別	1. 男性 (n=314)	21.7%	28.3%	32.2%	73.9%	32.5%	24.5%	49.0%
	7. 女性 (n=444)	15.1%	19.1%	24.5%	78.4%	21.2%	13.5%	45.5%

<年齢層別>

- いずれの年齢層においても「アンケート調査」が最も多くなっています。
- 2番目に多い手法は、70歳未満では「インターネットを活用した市政モニターなどITの活用」、70歳以上では「説明会や意見交換会（土日・休日午後の開催）」となっています。
- 特に、18歳～50歳代では、「インターネットを活用した市政モニターなどITの活用」がいずれも半数を上回っていることから、ITを活用して意見やニーズを把握することが有効であることが分かります。

図表 年齢層別の「参加できる」手法

		1. 説明会や 意見交換 会（平日 夜間の開 催）	2. 説明会や 意見交換 会（土 日・休日 午前の開 催）	3. 説明会や 意見交換 会（土 日・休日 午後の開 催）	4. アンケ ー ト 調 査	5. パブリ ック・コ メ ン ト	6. シンポ ジ ウ ム	7. インテ ー ネ ッ ト を 活 用 し た 市 政 モ ニ タ ー な ど I T の 活 用
年 齢 層	1. 18～19歳 (n=5)	20.0%	0.0%	20.0%	100.0%	20.0%	0.0%	100.0%
	2. 20～29歳 (n=62)	17.7%	24.2%	25.8%	77.4%	33.9%	12.9%	69.4%
	3. 30～39歳 (n=123)	8.9%	25.2%	14.6%	87.0%	30.9%	13.0%	69.1%
	4. 40～49歳 (n=176)	16.5%	22.2%	26.1%	85.2%	31.8%	20.5%	59.1%
	5. 50～59歳 (n=123)	17.1%	23.6%	35.8%	81.3%	24.4%	26.0%	52.0%
	6. 60～69歳 (n=128)	22.7%	22.7%	29.7%	66.4%	23.4%	18.8%	33.6%
	7. 70歳以上 (n=144)	22.9%	22.2%	33.3%	61.1%	13.9%	14.6%	8.3%

<同居家族別>

- いずれも「アンケート調査」が最も多く、次いで、中学生以下の子どもがいる回答者は「インターネットを活用した市政モニターなどITの活用」、65歳以上の家族がいる回答者は「説明会や意見交換会（土日・休日午後の開催）」の順となっています。

図表 同居家族別の「参加できる」手法

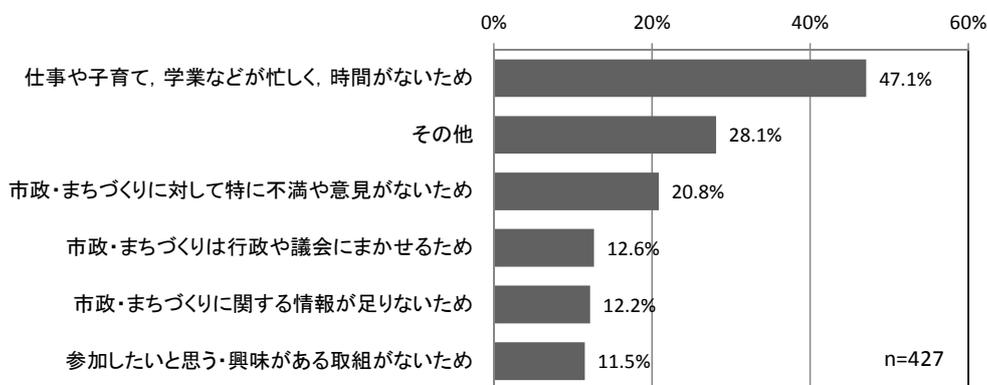
		1. 説明会や 意見交換 会（平日 夜間の開 催）	2. 説明会や 意見交換 会（土 日・休日 午前の開 催）	3. 説明会や 意見交換 会（土 日・休日 午後の開 催）	4. アンケ ー ト 調 査	5. パブリ ック・コ メ ン ト	6. シンポ ジ ウ ム	7. インテ ー ネ ッ ト を 活 用 し た 市 政 モ ニ タ ー な ど I T の 活 用
同 居 家 族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=116)	10.3%	31.0%	20.7%	82.8%	31.0%	18.1%	60.3%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=131)	13.7%	28.2%	29.0%	83.2%	28.2%	23.7%	61.1%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=233)	19.7%	21.9%	31.3%	63.5%	18.5%	15.9%	30.9%
	4. いない (n=293)	17.1%	15.7%	23.5%	74.1%	24.2%	14.0%	48.5%

問31) 問29で「3 参加したくない」、「4 関心がない」を選んだ方にうかがいます。参加をしない・関心がない理由は、主にどのようなことですか。あてはまるものに○をつけてください。(※複数回答可)

<全体 (n=427) >

- 新たな総合計画づくりに参加したくない・関心がない理由は、「仕事や子育て，学業などが忙しく，時間がないため」が47.1%で最も多く，約半数を占めています。
- 次いで，「その他」の28.1%，「市政・まちづくりに対して特に不満や意見がないため」の20.8%の順となっています。
- 「その他」の具体的な理由としては，「介護で忙しいため」，「高齢のため」，「病気・体調不良のため」などが挙げられています。

図表 全体の参加をしない・関心がない理由の順位



<性別>

- 性別にみると，男女ともに「仕事や子育て，学業などが忙しく，時間がないため」が最も多く，特に女性（46.7%）が男性（40.1%）を6.6ポイント上回っています。

図表 性別の参加をしない・関心がない理由

		1. 仕事や子育て，学業などが忙しく，時間がないため	2. 市政・まちづくりに関する情報が足りないため	3. 参加したいと思う・興味がある取組がないため	4. 市政・まちづくりは行政や議会にまかせるため	5. 市政・まちづくりに対して特に不満や意見がないため	6. その他
性別	1. 男性 (n=147)	40.1%	8.8%	12.9%	12.9%	19.7%	24.5%
	2. 女性 (n=274)	46.7%	12.8%	9.9%	10.6%	18.6%	24.8%

第2章 調査結果 <総合計画策定への参加意向>

<年齢層別>

○年齢層別にみると、18～19歳は「市政・まちづくりに対して特に不満や意見がないため」、20～50歳代は「仕事や子育て、学業などが忙しく、時間がないため」、60歳以上は「その他」が最も多く、20～50歳代は、参加する時間がないことが障壁となっていることが分かります。

図表 年齢層別の参加をしない・関心がない理由

		1. 仕事や子育て、学業などが忙しく、時間がないため	2. 市政・まちづくりに関する情報が足りないため	3. 参加したいと思う・興味がある取組がないため	4. 市政・まちづくりは行政や議会にまかせるため	5. 市政・まちづくりに対して特に不満や意見がないため	6. その他
年齢層	1. 18～19歳 (n=3)	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=50)	68.0%	18.0%	14.0%	4.0%	14.0%	12.0%
	3. 30～39歳 (n=47)	78.7%	8.5%	12.8%	8.5%	8.5%	6.4%
	4. 40～49歳 (n=80)	65.0%	8.8%	11.3%	5.0%	13.8%	17.5%
	5. 50～59歳 (n=66)	50.0%	15.2%	19.7%	13.6%	15.2%	15.2%
	6. 60～69歳 (n=82)	29.3%	11.0%	7.3%	19.5%	19.5%	30.5%
	7. 70歳以上 (n=98)	7.1%	8.2%	4.1%	13.3%	32.7%	49.0%

<同居家族別>

○同居家族別にみると、中学生以下の子どもがいる回答者は「仕事や子育て、学業などが忙しく、時間がないため」、65歳以上の家族がいる回答者は「その他（介護で忙しいため）」が最も多くなっています。

図表 同居家族別の参加をしない・関心がない理由

		1. 仕事や子育て、学業などが忙しく、時間がないため	2. 市政・まちづくりに関する情報が足りないため	3. 参加したいと思う・興味がある取組がないため	4. 市政・まちづくりは行政や議会にまかせるため	5. 市政・まちづくりに対して特に不満や意見がないため	6. その他
年齢層	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=30)	86.7%	6.7%	10.0%	3.3%	6.7%	6.7%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=64)	70.3%	7.8%	14.1%	6.3%	10.9%	12.5%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=132)	22.7%	12.1%	5.3%	14.4%	25.8%	35.6%
	4. いない (n=185)	46.5%	13.0%	14.1%	10.8%	16.8%	24.3%

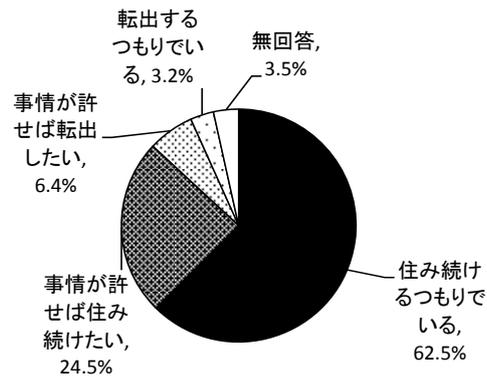
4 今後の定住意向

問 42) あなたは、今後も調布市に住み続けたいと思いますか。

<全体 (n=1,332) >

○今後の定住意向について、調布市に「住み続けるつもりでいる」は 62.5%、「事情が許せば住み続けたい」は 24.5%であり、合計すると 86.9%で8割を上回っています。

図表 全体の定住意向



<性別>

○性別にみると、定住意向（「住み続けるつもりでいる」+「事情が許せば住み続けたい」）は、男性が 90.2%で9割を上回っており、女性（85.2%）を 5.0ポイント上回っています。

図表 性別の定住意向

性別	定住意向	定住意向			
		1. 住み続けるつもりでいる	2. 事情が許せば住み続けたい	3. 事情が許せば転出したい	4. 転出するつもりでいる
1. 男性 (n=511)	90.2%	64.8%	25.4%	4.9%	2.9%
2. 女性 (n=798)	85.2%	61.2%	24.1%	7.5%	3.4%

第2章 調査結果 <今後の定住意向>

<年齢層別>

○年齢層別にみると、定住意向は60～69歳が92.1%で9割を上回る一方、18～19歳は60.0%で6割にとどまっており、概ね年齢が上がるにつれて定住意向が高くなっています。

図表 年齢層別の定住意向

		定住意向	1. 住み続けるつもり でいる	2. 事情が許せば住み 続けたい	3. 事情が許せば転出 したい	4. 転出する つもりで いる
年齢層	1. 18～19歳 (n=10)	60.0%	30.0%	30.0%	30.0%	10.0%
	2. 20～29歳 (n=117)	76.1%	29.9%	46.2%	6.8%	15.4%
	3. 30～39歳 (n=181)	87.3%	56.4%	30.9%	8.3%	3.9%
	4. 40～49歳 (n=269)	85.5%	50.9%	34.6%	9.7%	2.2%
	5. 50～59歳 (n=205)	87.3%	68.3%	19.0%	5.4%	3.9%
	6. 60～69歳 (n=242)	92.1%	76.0%	16.1%	5.0%	0.8%
	7. 70歳以上 (n=296)	89.5%	75.7%	13.9%	3.4%	0.3%

<地域別>

○地域別にみると、定住意向はいずれの地域においても約9割であり、特に南部地域（中心市街地 88.7%，中心市街地以外 88.4%）や北部地域（88.6%）が多くなっています。

図表 地域別の定住意向

		定住意向	1. 住み続けるつもり でいる	2. 事情が許せば住み 続けたい	3. 事情が許せば転出 したい	4. 転出する つもりで いる
地域	1. 東部地域 (n=321)	85.7%	60.4%	25.2%	7.2%	5.6%
	2. 北部地域 (n=290)	88.6%	67.9%	20.7%	6.2%	1.0%
	3. 南部地域（中心市街地） (n=177)	88.7%	54.2%	34.5%	5.6%	3.4%
	4. 南部地域（中心市街地以外） (n=275)	88.4%	63.6%	24.7%	6.2%	2.2%
	5. 西部地域 (n=242)	86.4%	64.9%	21.5%	7.0%	3.7%

<同居家族別>

○同居家族別にみると、定住意向は65歳以上の家族がいる回答者（91.6%）や6歳以下の乳幼児がいる回答者（91.1%）が9割を上回っています。

図表 同居家族別の定住意向

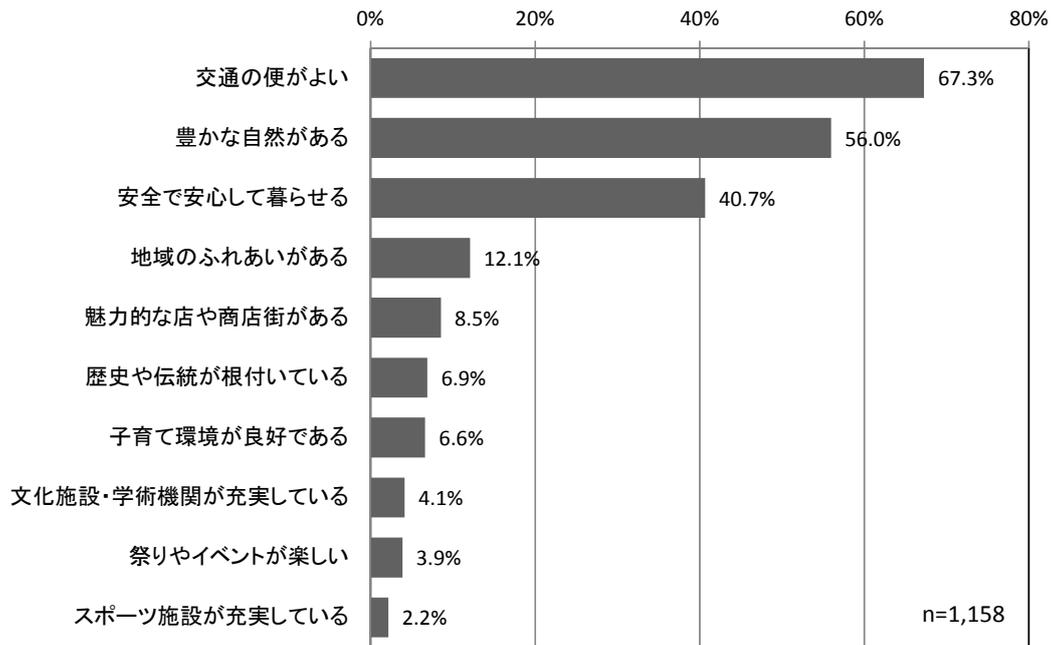
		定住意向	1. 住み続けるつもり でいる	2. 事情が許せば住み 続けたい	3. 事情が許せば転出 したい	4. 転出する つもりで いる
同居家族	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=158)	91.1%	62.0%	29.1%	6.3%	2.5%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=212)	88.2%	67.0%	21.2%	6.1%	2.8%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=418)	91.6%	71.8%	19.9%	4.3%	1.0%
	4. いない (n=524)	84.9%	55.3%	29.6%	6.9%	4.8%

問 43) 問 42 で「1 住み続けるつもりでいる」または「2 事情が許せば住み続けたい」を選んだ方にうかがいます。あなたが、調布のまちに住み続けたいと思う理由について、次の中から、3つ以内で選んで○をつけてください。(※複数回答可)

<全体 (n=1, 158) >

○「住み続けるつもりでいる」または「事情が許せば住み続けたい」理由としては、「交通の便がよい」が 67.3%、「豊かな自然がある」が 56.0%であり、いずれも半数を上回っています。

図表 全体の住み続けたい理由の順位



<年齢層別>

○年齢層別にみると、いずれの年齢層においても「交通の便がよい」が最も多く、特に 18～19 歳 (83.3%) や 50 歳代 (72.1%) が多くなっています。

図表 年齢層別の住み続けたい理由

		1. 安全で 安心して暮ら せる	2. 子育て 環境が 良好で ある	3. 地域の ふれあ いがあ る	4. 祭りや イベン トが楽 しい	5. 歴史や 伝統が 根付い ている	6. 交通の 便がよ い	7. 豊かな 自然が ある	8. 魅力的 な店や 商店街 がある	9. スポー ツ施設 が充実 してい る	10. 文化施 設・学 術機関 が充実 してい る
年 齢 層	1. 18～19歳 (n=6)	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	83.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	2. 20～29歳 (n=89)	40.4%	5.6%	6.7%	6.7%	2.2%	66.3%	43.8%	14.6%	3.4%	4.5%
	3. 30～39歳 (n=158)	29.1%	17.7%	4.4%	4.4%	4.4%	63.3%	51.3%	10.8%	0.6%	4.4%
	4. 40～49歳 (n=230)	34.8%	12.2%	7.0%	5.2%	7.0%	58.3%	48.3%	9.1%	3.0%	3.5%
	5. 50～59歳 (n=179)	39.1%	4.5%	8.9%	3.9%	3.9%	72.1%	55.3%	7.3%	0.6%	3.9%
	6. 60～69歳 (n=223)	41.3%	0.9%	12.6%	2.2%	8.5%	69.5%	65.9%	9.0%	3.6%	4.5%
	7. 70歳以上 (n=265)	47.5%	1.9%	21.9%	2.3%	10.6%	65.3%	56.6%	4.9%	1.9%	4.5%

第2章 調査結果 <今後の定住意向>

<地域別>

○地域別にみると、北部地域では「豊かな自然がある」、それ以外の地域では「交通の便がよい」が最も多くなっています。

図表 地域別の住み続けたい理由

		1. 安全で 安心して暮ら せる	2. 子育て 環境が 良好で ある	3. 地域の ふれあ いがあ る	4. 祭りや イベン トが楽 しい	5. 歴史や 伝統が 根付い ている	6. 交通の 便がよ い	7. 豊かな 自然が ある	8. 魅力的 な店や 商店街 がある	9. スポー ツ施設 が充実 してい る	10. 文化施 設・学 術機関 が充実 してい る
地域	1. 東部地域 (n=275)	40.7%	6.5%	10.2%	4.0%	4.4%	69.1%	49.1%	17.5%	0.7%	2.5%
	2. 北部地域 (n=257)	35.0%	7.8%	14.0%	1.9%	11.3%	49.0%	72.4%	2.7%	2.7%	5.1%
	3. 南部地域 (中心市街地) (n=157)	41.4%	5.1%	7.0%	5.1%	3.8%	77.1%	45.2%	15.3%	1.3%	8.3%
	4. 南部地域 (中心市街地以外) (n=243)	39.9%	4.9%	13.2%	4.5%	6.6%	70.0%	56.4%	4.5%	3.3%	3.3%
	5. 西部地域 (n=209)	41.1%	8.1%	11.5%	3.8%	7.2%	67.9%	46.9%	3.3%	2.4%	3.3%

<同居家族別>

○中学生以下の子どもがいる回答者の「子育て環境が良好である」は、6歳以下の乳幼児がいる回答者は27.1%、小・中学生がいる回答者は20.3%であり、全体よりそれぞれ20.5ポイント及び13.7ポイントと大きく上回っています。

図表 同居家族別の住み続けたい理由

		1. 安全で 安心して暮ら せる	2. 子育て 環境が 良好で ある	3. 地域の ふれあ いがあ る	4. 祭りや イベン トが楽 しい	5. 歴史や 伝統が 根付い ている	6. 交通の 便がよ い	7. 豊かな 自然が ある	8. 魅力的 な店や 商店街 がある	9. スポー ツ施設 が充実 してい る	10. 文化施 設・学 術機関 が充実 してい る
地域	1. 6歳以下の乳幼児がいる (n=144)	35.4%	27.1%	6.9%	5.6%	4.2%	52.1%	47.2%	6.9%	1.4%	1.4%
	2. 小・中学生の子どもがいる (n=187)	32.6%	20.3%	12.8%	3.7%	6.4%	59.4%	51.9%	8.0%	3.7%	1.6%
	3. 65歳以上の家族がいる (n=383)	42.0%	2.6%	15.4%	4.4%	8.1%	65.5%	58.5%	6.8%	1.6%	4.7%
	4. いない (n=445)	38.7%	1.6%	9.4%	2.7%	6.7%	68.5%	53.9%	10.3%	2.2%	5.2%